

第1回日口知事会議

モスクワ市 ペトロフスキー宮殿

2019年5月13日、14日

目次

日口知事会議参加者名簿	2
第1回日口知事会議日程	9
日口知事会議概要	11
開会式	11
歓迎挨拶：マトヴィエンコ連邦院議長	11
ロシア側代表挨拶：モスクワ市長	13
日本側代表挨拶：全国知事会会長	14
ロシア側挨拶：サンクトペテルブルク知事代行	17
来賓挨拶：上月豊久駐ロシア日本国大使	18
第1セッション	21
イヴァノヴォ州知事	21
富山県知事	23
サハリン州副首相	24
鹿児島県知事	26
沿海地方知事	27
ノヴゴロド州第1副知事	28
ウリヤノフスク州知事	29
ハバロフスク州副首相	30
ヤロスラブリ州知事	32
ムルマンスク州知事代行	32
第2セッション	33
岡山県知事	34
ニジニー・ノヴゴロド州知事	36
茨城県知事	38
ヴォロネジ州知事	39
カルーガ州知事	41
リペツク州知事代行	42
第3セッション	44
モスクワ州政府副首相	44
岐阜県知事	46
トムスク州知事	48
埼玉県知事	49
サハ共和国ヤクーチャ首長	50
第4セッション	51
鳥取県知事	52
北海道知事	54
トムスク州知事	56
モスクワ市対外経済大臣	57

日ロ知事会議参加者名簿

日本側参加者名簿

参加知事

埼玉県知事	上田 清司
北海道知事	鈴木 直道
茨城県知事	大井川 和彦
富山県知事	石井 隆一
岐阜県知事	古田 肇
鳥取県知事	平井 伸治
岡山県知事	伊原木 隆太
鹿児島県知事	三反園 訓

参加知事随行者

埼玉県総合調整幹	岡 精一
埼玉県企画総務課副課長	坂入 康昭
北海道国際局ロシア担当局長	篠原 信之
北海道知事室秘書課主査	瓜生 武
北海道総合政策部国際局国際課ロシアグループ主幹	塚本 昌章
北海道総合政策部国際局国際課ロシアグループ主査	高橋 誠
茨城県グローバル戦略チームリーダー	木名瀬 貴久
富山県理事	柿沢 昌宏

富山県秘書課長	小杉 健
富山県生活環境文化部次長	清原 明宏
富山県商工労働部立地通商課物流通商班長	吉澤 泰樹
富山県企画調整室主幹	濱元 孝之
富山県国際課主任	岩崎 渉
富山県国際交流員	シャーホフ・スタニスラフ
岐阜県観光国際局長	崎浦 良典
岐阜県秘書課係長	大島 弘義
岐阜県清流の国づくり政策課長	辻川 和希
岐阜県清流の国づくり政策課課長補佐兼係長	川口 晶子
鳥取県交流推進課長	遠藤 俊樹
鳥取県国際交流員	LI VIACHESLAV
岡山県総合政策局政策推進監	笠原 和男
岡山県総合政策局 政策推進課総括参事	近藤 利信
鹿児島県知事秘書官	浅井 勝志
鹿児島県国際交流課長	内山 功一

全国知事会事務局

全国知事会事務総長	古尾谷 光男
全国知事会部長	中原 健一
全国知事会総務部副部長	大矢 豪稔
全国知事会総務部副部長	松橋 弘子
公益財団法人都道府県センター主事	金澤 洋介
ロシア旅行社	福井 学

ロシア側出席者

ロシア連邦構成主体国権最高執行機関責任者

1. ツィデノフ・アレクセイ・サンブエヴィチ - ブリヤート共和国首長
2. グーセフ・アレクサンドル・ヴィクトロヴィチ - ヴォロネジ州知事
3. ヴォスクレセンスキー・スタニスラフ・セルゲーエヴィチ - イヴァノヴォ州知事
4. アルタモノフ・アナトーリー・ドミトリエヴィチ - カルーガ州知事
5. イリューヒン・ウラジール・イヴァノヴィチ - カムチャツカ地方知事
6. シトニコフ・セルゲイ・コンスタンチノヴィチ - コストロマ州知事（ディスカッション一般参加）
7. ドロズデンコ・アレクサンドル・ユーリエヴィチ - レニングラード州知事
8. アルタモノフ・イーゴリ・ゲオルギエヴィチ - リペツク州行政府首長臨時代行（要確認）
9. エフスチフエーエフ・アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ - マリ・エル共和国首長（要確認）
10. ソビャーニン・セルゲイ・セミョーノヴィチ - モスクワ市長
11. ヴォロビヨフ・アンドレイ・ユーリエヴィチ - モスクワ州知事
12. ニキーチン・グレブ・セルゲーエヴィチ - ニジニー・ノヴゴロド州知事
(2019年5月13日のみ出席)
13. ニキーチン・アンドレイ・セルゲーエヴィチ - ノヴゴロド州知事
14. コジェミャコ・オレグ・ニコラエヴィチ - 沿海地方知事
15. ベグロフ・アレクサンドル・ドミトリエヴィチ - サンクトペテルブルク知事臨時代行
16. ニコラエフ・アイセン・セルゲーエヴィチ - サハ（ヤクーチヤ）共和国首長
17. グーディン・ヴィターリー・ヴァシリエヴィチ - サハリン州政府副議長代行、駐モスクワ市サハリン州知事・サハリン州政府代表部長
18. クイヴァシェフ・エフゲニー・ウラジール・ミロヴィチ - スヴェルドロフスク州知事
19. ムハメトシン・ファリド・ハイルロヴィチ - タタルスタン共和国国会議長
20. ジヴァチキン・セルゲイ・アナトリエヴィチ - トムスク州知事

- | | | |
|-----|-----------------------|------------|
| 21. | モロゾフ・セルゲイ・イ
ヴァノヴィチ | ウリヤノフスク州知事 |
| 22. | フルガル・セルゲイ・イ
ヴァノヴィチ | ハバロフスク地方知事 |

ロシア連邦構成主体首長 随員

- | | | |
|-----|------------------------------------|--|
| 23. | チャイカ・ユーリー・ア
ファナシエヴィチ | ハバロフスク地方 投資発展企業活動大臣 |
| 24. | クチューク・ウラジーミ
ル・ヴァレリエヴィチ | ハバロフスク地方 知事専門官局主任専門官（国際交
流担当） |
| 25. | シチェルバコフ・ヴァチ
ェスラフ・アレクサンド
ロヴィチ | ハバロフスク地方 知事・政府記録・企画局長 |
| 26. | ミーニナ・ヴェロニカ・
ヴィタリエヴナ | ノヴゴロド州 第一副知事 |
| 27. | マレンコ・イリヤ・セル
ゲーエヴィチ | ノヴゴロド州 産業貿易大臣 |
| 28. | シャバラトフ・ヴィタリ
ー・アレクセーエヴィチ | ヴォロネジ州副知事、ヴォロネジ州政府第一副議長 |
| 29. | ドミトリエヴァ・リュド
ミーラ・ウラジスラヴォ
ヴナ | イヴァノヴォ州政府副議長、イヴァノヴォ州経済発展
複合体責任者 |
| 30. | ストゥカノフ・アレクセ
イ・アレクサンドロヴィ
チ | トムスク州行政府 国際・地域交流局長 |
| 31. | ゾーリナ・エレナ・ヴ
ィクトロヴナ | トムスク州行政府 国際・地域交流局主任専門官 |
| 32. | クラマレンコ・イーゴ
リ・ヴァシリエヴィチ | トムスク州 知事付カメラマン |
| 33. | グーセヴァ・オリガ・ユ
ーリエヴナ | ニジニー・ノヴゴロド州政府対外交流局長 |
| 34. | ブラートフ・アルチョ
ム・ヴィクトロヴィチ | ロシア連邦政府附属ニジニー・ノヴゴロド州代表部長 |
| 35. | ポチョムキン・ウラジー
ミル・ヴァシリエヴィチ | カルーガ州副知事、ロシア連邦政府附属カルーガ州政
府代表部長 |
| 36. | ヴォロビョーヴァ・ラリ
ーサ・ヴィクトロヴナ | ロシア連邦政府附属カルーガ州政府代表部副部長、課
長 |
| 37. | アルダコフ・ピョート
ル・アナトーリエヴィチ | ロシア連邦政府附属カルーガ州政府代表部主任専門官 |
| 38. | フェドトフ・アンドレ
イ・サンダミノヴィチ | サハ共和国（ヤクーチヤ）政府第1副議長、ロシア連
邦大統領附属サハ共和国（ヤクーチヤ）常任代表 |
| 39. | ポリソフ・キム・アレク
サンドロヴィチ | サハ共和国（ヤクーチヤ）極東連邦管区担当常任副代
表 |
| 40. | スモロダ・エカテリー
ナ・ヴァチェスラーヴォ
ヴナ | ウリヤノフスク州国際・地域間交流発展大臣 |

- | | | |
|-----|-----------------------|---------------------------|
| 41. | ヴィノグラードフ・アントン・イヴァノヴィチ | ブリヤート共和国投資大臣 |
| 42. | ディムブリロフ・ボリス・ドルジエヴィチ | ブリヤート共和国地域発展基金理事長 |
| 43. | フロモフ・ヴァディム・ヴァレリアノヴィチ | コストロマ州は随行なし
モスクワ州政府副議長 |
| 44. | ロギノフ・アントン・ウラジーミロヴィチ | モスクワ州投資・イノベーション副大臣 |
| 45. | | |
| 46. | | |
| 47. | | |
| 48. | | |
| 49. | | |

露日議会間・地域間協会支援協議会所属連邦院議員

- | | | |
|-----|----------------------------|---|
| 50. | コサチョフ・コンスタンチン・イオシフォヴィチ | 連邦院国際問題委員長、マリ・エル共和国国権執行機関代表（露日議会間・地域間協会支援協議会長） |
| 51. | アキモフ・アレクサンドル・コンスタンチノヴィチ | - 連邦院連邦機構・地域政策・地方自治・北方問題副委員長、サハ共和国（ヤクーチヤ）国権立法（代表）機関代表 |
| 52. | ヴァインベルグ・アレクサンドル・ヴラデレノヴィチ | - 連邦院学術教育文化委員会メンバー、ニジニー・ノヴゴロド州国権立法（代表）機関代表 |
| 53. | ヴァルフォロメエフ・アレクサンドル・ゲオルギエヴィチ | - 連邦院社会政策副委員長、ブリヤート共和国国権立法（代表）機関代表 |
| 54. | ヴァシレンコ・ドミトリー・ユーリエヴィチ | - 連邦院学術教育文化委員会メンバー、レニングラード州国権立法（代表）機関代表 |
| 55. | ヴァシリエフ・ヴァレリー・ニコラエヴィチ | - 連邦院経済政策副委員長、イヴァノヴォ州国権執行機関代表 |
| 56. | ヴォルコフ・ユーリー・ニコラエヴィチ | - 連邦院議会活動執務規定組織委員会メンバー、カルーガ州国権執行機関代表 |
| 57. | ゴリャチェヴァ・スヴェトラナ・ペトローヴナ | - 連邦院議会活動執務規定組織第一副委員長、沿海地方国権執行機関代表 |
| 58. | グレシニャコヴァ・エレナ・ゲンナディエヴナ | - 連邦院学術教育文化委員会メンバー、ハバロフスク地方国権執行機関代表 |
| 59. | ドラガンキナ・ジナイダ・フォードロヴナ | - 連邦院学術教育文化委員会メンバー、モスクワ市国権立法（代表）機関代表 |
| 60. | ジュラヴリョフ・ニコライ・アンドレーエヴィチ | - 連邦院予算・金融市場第一副委員長、コストロマ州国権執行機関代表 |

61. カヴジャラゼ・マクシム・ゲンナディエヴィチ - 連邦院憲法制定・国家建設副委員長、リペツク州国権立法（代表）機関代表
62. クラフチェンコ・ウラジーミル・カジミーロヴィチ - 連邦院経済政策委員会メンバー、トムスク州国権立法（代表）機関代表
63. クテポフ・アンドレイ・ヴィクトロヴィチ - 連邦院議会活動執務規定組織委員長、サンクトペテルブルク国権立法（代表）機関代表
64. ルーキン・セルゲイ・ニコラエヴィチ - 連邦院連邦機構・地域政策・地方自治・北方問題委員会メンバー、ヴォロネジ州国権立法（代表）機関代表
65. メゼンツェフ・ドミトリー・フョードロヴィチ - 連邦院経済政策委員長、サハリン州国権執行機関代表
66. モロゾフ・オレグ・ヴィクトロヴィチ - 連邦院国際問題委員会メンバー、タタルスタン共和国国権執行機関代表
67. ネヴヅロフ・ボリス・アレクサンドロヴィチ - 連邦院議会活動執務規定組織委員会メンバー、カムチャツカ州国権執行機関代表
68. オゼロフ・ヴィクトル・アレクセーエヴィチ - 連邦院議会活動執務規定組織委員会メンバー、ハバロフスク地方国権立法（代表）機関代表
69. ボノマリョフ・ヴァレリー・アンドレーエヴィチ - 連邦院議会活動執務規定組織委員会メンバー、カムチャツカ州国権立法（代表）機関代表
70. ルースキフ・アレクセイ・ユーリエヴィチ - 連邦院経済政策副委員長、モスクワ州国権執行機関代表
71. リャブーヒン・セルゲイ・ニコラエヴィチ - 連邦院予算・金融市場委員長、ウリヤノフスク州国権立法（代表）機関代表
72. スミルノフ・ヴィクトル・ウラジーミロヴィチ - 連邦院学術教育文化副委員長、イヴァノヴォ州国権立法（代表）機関代表
73. タラバエヴァ・リュドミラ・ザウモヴナ - 連邦院農業食糧政策・自然利用委員会メンバー、沿海地方国権立法（代表）機関代表 n
74. ファブリチヌイ・セルゲイ・ユーリエヴィチ - 連邦院議会活動執務規定組織委員会メンバーノヴゴロド州国権立法（代表）機関代表
75. フォーミン・イーゴリ・ヴァディモヴィチ - 連邦院社会政策副委員長、レニングラード州国権執行機関代表
76. チェルネツキー・アルカーディー・ミハイロヴィチ - 連邦院連邦機構・地域政策・地方自治・北方問題第一副委員長、スヴェルドロフスク州国権立法（代表）機関代表
77. シュレポフ・エフゲニー・ボリソヴィチ - 国家院対日議員議員グループ コーディネーター
78. ウダロヴァ・ナタリヤ・チモフェーエヴナ - 連邦院議長官房長

79.	ホディレフ・オレグ・ドミト リエヴィチ	-	連邦院 事務局 国際問題担当副局長（露日議会間・地域間 協会支援協議会 書記）
80.	マリヤシェヴァ・ユリヤ・リ ヴォヴァ		連邦院 事務局 国際交流局
81.	サヴィチ・テレシチエン コ・イネッサ・セルゲーエ ヴナ		連邦院 事務局 報道局
82.			連邦院 事務局
83.			連邦院 事務局
84.			連邦院 事務局
85.			連邦院 事務局
86.			連邦院 事務局
87.			連邦院 事務局
88.	マクシモフ・チムール・イ ーゴレヴィチ	-	ロシア連邦経済発展副大臣
89.	ポポヴァ・アンナ・ニコラ エヴナ	-	ロシア連邦経済発展省 対外経済活動発展調整局副局長
90.	オシマコフ・ヴァシリー・ セルゲーエヴィチ	-	ロシア連邦産業貿易副大臣
91.	シュヴィトコイ・ミハイル・ エフィモヴィチ	-	国際文化交流担当ロシア連邦大統領特別代表、ロシア連邦 外務省特任大使
92.	ゴルベンコ・アレクサンド ル・ニコラエヴィチ		在モスクワ市政府地域安全・情報政策問題担当モスクワ副市長
93.	チェリョーミン・セルゲイ・ エフゲニエヴィチ		モスクワ市政府、モスクワ市対外経済国際交流局長
94.			モスクワ市対外経済国際交流局
95.			モスクワ市対外経済国際交流局
96.			モスクワ市対外経済国際交流局
97.			モスクワ市対外経済国際交流局
98.			モスクワ市対外経済国際交流局
99.			モスクワ市対外経済国際交流局
100.			モスクワ市対外経済国際交流局

第1回日ロ知事会議日程

1. 出発

5月12日(日)

12:15 成田空港発 SU261 便

2. モスクワ市内

5月12日(日)

16:05 シレメチエヴォ空港到着

18:30 ホテルメトロポール モスクワ着

19:30 在ロシア日本国大使主催夕食会

5月13日(月)

(1) 日ロ知事会議(11:00~16:40) 場所: ペトロフスキー宮殿 会議場2階

11:00~11:55 開会式

- ・歓迎挨拶 : マトヴィエンコ ロシア連邦院議長
- ・プーチン大統領代読: マトヴィエンコ ロシア連邦院議長
- ・ロシア側代表挨拶: ソビヤーニン モスクワ市長
- ・日本側代表挨拶: 上田 全国知事会会長(埼玉県知事)
- ・逢沢一郎 衆議院議員・日露友好議員連盟会長挨拶代読: 岡山県知事代読
- ・ロシア側挨拶: ベグロフ サンクトペテルブルク知事代行
- ・世耕弘成参議院自由民主党日露議員懇話会会長: 上月豊久 駐ロシア大使代読
- ・来賓挨拶: 上月豊久 駐ロシア大使

11:55~12:20 第一部

- ・テーマ: 「日ロ関係における地域間協力の役割」
- ・モデレーター: コサチョフ ロシア連邦院国際問題委員長

13:00~13:45 第二部

- ・テーマ: 「地方における中小・零細企業の発展と産業・インフラ施設に対する投資の誘致・奨励・保護」
- ・モデレーター: マクシモフ ロシア連邦経済発展省副大臣

15:00～15:35 第三部

- ・テーマ：「ロシアの連邦構成主体と日本の都道府県による技術革新への支援」
- ・モデレーター：オシマコフ ロシア連邦産業貿易省副大臣

15:35～16:10 第四部

- ・テーマ：「日ロ間の文化・人文分野での協力と青少年交流の発展に対する地方の貢献」
- ・モデレーター：シュヴァイトコイ 国際文化交流担当ロシア連邦大統領特別代表
ロシア外務省特任大使

16:10～16:20 閉会式

(2) ザリャジエ公園視察

(3) モスクワ市長主催ロシア側知事との夕食と文化プログラム

5月14日(火)

10:10～13:25 モスクワ市公共施設等視察

- ・モスクワ国立大学本館見学、雀が丘展望台
- ・ルジニキ・スタジアム視察
- ・モスクワ市大型インフラ施設「モスクワ中央環状線」視察（ルジニキ駅からビジネスセンター駅）
- ・モスクワ・シティ施設視察

公式昼食会 レストラン「トゥーランドット」

15:00～16:10 ロシア連邦院表敬訪問

- ・マトヴィエンコロシア連邦院議長、連邦院議員、日ロ両知事による会談

19:00 発 帰国

5月15日(水)

10:30 成田到着・解散

日ロ知事会議概要

マトヴィエンコ連邦院議長挨拶

尊敬する上田会長、
尊敬する日ロ両国各地方の指導者・代表の皆様、
尊敬する同僚、紳士淑女の皆様！

ロシアの首都モスクワにおきまして、何よりもまず皆様を心より歓迎申し上げたいと思います。

はじめに、ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン・ロシア連邦大統領より、本日の重要な会議にご列席の皆様にあてたご挨拶を紹介することをお許しください。

ープーチン大統領挨拶代読ー

日ロ知事会議参加者の皆様、親愛なる友人の皆様、日ロ知事会議の開催にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

地域間交流は、日ロ両国関係の重要な構成要素であります。象徴的なことに、現在進行中の、日本におけるロシア年、ロシアにおける日本年のイベントには、すでにロシア連邦の15の構成主体、日本の10の都道府県レベルの自治体が積極的に参加をしています。

こうした形での協力により、地方において自治体のみならず、ビジネス・社会関係者、学術・文化・教育分野の活動家により広く参画を仰ぐことが可能となっています。数十におよぶ社会経済、科学技術、人文その他各分野の共同プロジェクトが実現されつつあります。

会議参加者の皆様により、詳細な建設的討議と、貴重な実際の経験の交換が行われ、地域間協力の新たな展望ある形態とメカニズムが生み出されることを期待しています。それは、今後日ロ両国民の友好と相互理解が強化されることに資するに違いありません。

皆様のお仕事のご成功とご健勝をお祈りします。

**ロシア連邦大統領
ウラジーミル・プーチン**

尊敬する同僚の皆様、私たちの出会いが素晴らしい春の日で開催されるのは象徴的です。春は、大自然の力の目覚めの時であり、新たな希望と偉業の時でもあります。正にこのような春に、日ロ知事会議の活動が復活するということは、大変良い印であると思います。

また、非常に象徴的であるのは、第一回会議が、モスクワの、ロシアの皇帝たちの旅路の宿舎であった宮殿において開催されることです。

ここモスクワにおいて、偉大なるピョートル一世は、我が国の統治者としてはじめて、日本の商人であった伝兵衛と会いました。この伝兵衛は、のちにロシア初の日本語学校を築いたのであります。

それから三世紀が過ぎ、再びロシアの首都は、相互に実りある協力と真のパートナーシップに基づき、私たちが歩み続ける出発点となっています。

すでに20世紀において、日ロ間の地域間協力、姉妹都市関係の締結の始めの歩みがなされました。

今日、大多数のロシア連邦構成主体は、すでに、日本のパートナーたちと強い関係で結ばれています。

私たちが共通の努力によって再び知事会議の仕事を開始することを決定したこと、この決定は長らく機が熟し、まさに時宜を得たものなのであります。

会議の活動を再開するにあたり鍵となる役割を果たしたのは、もちろん、ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン・ロシア大統領と安倍晋三・日本国首相の支援であります。二人の間には、建設的で信頼ある関係が築かれて参りました。両国リーダーの努力のおかげで、日ロ関係の大きな再起動が起こったのです。極めて真剣な合意が最高レベルで一致に達しており、その実現には、当然ながら、ロシア連邦構成主体も、日本の都道府県も積極的に参加することが必要です。

今日、ここにはロシア構成主体と日本の都道府県から非常に代表的な指導者が集っています。このことは、両国が地域間交流の強化と発展に真剣な関心を持っていることを物語っています。

私たちは、ロシア連邦の構成主体と日本の都道府県の間にある合意事項の現状について研究する必要があります。あるところでは、仕事がどんどん進んでおり、あるところでは協力がようやく始まったばかりでしょう。もちろん、先頭に行く地域に見習わなければなりません。

私は、日ロ両国には、経済においても、また、人文分野においても、巨大で計り知れないほどの、互恵的地域間協力のポテンシャルがあることを確信しています。

ロシアの地方はそれぞれが、ユニークで競争力ある長所を有しており、それらは国際協力の分野で活用していただくことができることでしょう。

ロシアでは今年から数々の大規模国家プロジェクトが実現に向けて開始されました。これらは、海外のパートナーとの協力発展に補完的可能性を与えるものでしょう。そしてもちろん、私たちの日本のパートナーたちは、ロシアの国策で最も重要な分野が、過去も現在も、極東各地域における加速的経済発展、加速的経済成長の実現にあることをよくご存じです。

これらの地域では、ビジネス支援のあらゆるメカニズムが機能しており、互恵的で収益のある投資条件が創設されています。

また、地域間交流は、中小企業分野での協力強化において鍵となる役割を果たすことができます。今日ロシアの各地域では、こうした企業が数千社も活動しており、その多くが様々な経済分野において、あらゆる有望な業務を行っています。この方向性についても、よく観察いただく必要があると思います。

型通りの協力のあり方から少し離れてみましょう。大学の指導的研究者や、斬新で創造的なアイデアのある企業家の方々を巻き込むような、新たな、標準的ではない形での協力を奨励することが必要です。その際には、両国民の文化、健康、社会保障といった分野についても忘れることはできません。

連邦院は、地方のための議会として、すべての面で、ロシア連邦構成主体と日本の都道府県の効果的協力の発展を支援してまいる所存です。同じお考えを、日本の参議院も、また私の良き友人である伊達参議院議長もお持ちです。

私たちは日本の同僚の皆様とともに、露日議会間・地域間協会支援協議会を通じて、またその他の議会機構を通じて、この仕事に対する調整を今後も続けます。

私たちの行く手に、多くのプロジェクト、明るいアイデア、共通の成功と達成が待っていることを確信しています。日本には賢明なる格言がございます。「高みに上る熱意あるものこそが、梯子を作るのである」と。私たちの知事会議が、まさにそのような梯子となり、私たちがその段を、全面的、互恵的、建設的で長期的な協力の新たな頂上へ向かって共に上っていけるようにしましょう。この知事会議の枠内で、皆様が二者会談を行い、新たな計画を交換いただけることは、私にとりまして慶賀に堪えません。

今回の会議開催にあたり、素晴らしい準備を行い、条件を整えてくださったセルゲイ・セミョーノヴィチ・ソビヤーニン・モスクワ市長に感謝申し上げたいと存じます。また、日本の同僚と友人の皆様に、ここ数年間の非常に多くの変化によって、新しく立派になったモスクワをご覧いただけることを喜ばしく思います。巨大都市における道路、交通、その他のインフラ発展における経験を交換していただける機会があることでしょう。重要なのは、両国市民にとって快適な居住環境、快適な条件を生み出す経験を交換することであり、モスクワ市長とそのチームがなした成功をご覧いただくことであると思います。

尊敬する同僚の皆様、会議のご成功をお祈り申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

ソビヤーニン・モスクワ市長にご挨拶をお願いします。

ソビヤーニン モスクワ市長挨拶

尊敬する友人の皆様、こんにちは。

ひとつ小さな秘密をお話しします。私は、マトヴィエンコ議長の積極的な役割がなかったら、私達はこのメンバー構成でこの宮殿に集まることはなかったと思っています。議長はサクトペテルブルク知事時代に、日本の各地域と緊密に連携し、投資を誘致し、関係を築いてきました。両国の友好の価値をわかっています。

もう一つ秘密をお話しします。マトヴィエンコ議長も述べられましたが、公共空間についてです。その役割と発展に真剣に取り組んでいます。30年ほど前、私は日本を初めて訪れました。ペレストロイカが始まり、我が国が岐路に立たされていた時代です。ソ連邦が崩壊し、国は違う次元へ、別な価値観へ移行しようとしていました。発展への道を探し、国や地域の発展について他国の経験を探していたのです。当時私はシベリアの小さな町の初代市長でした。東京を訪れ、大都会の巨大な高層ビル群に圧倒されました。こんな思い出もあります。あるビルの50階で私たちがセミナーに参加していた時、地震が起きたのです。ビルはぐらぐらと揺れ始めましたが、誰一人として授業を中止しようとしませんでした。

しかし一番の思い出は、東京から一時間程の距離にある小さな町への旅です。この町の中央通りを走行中に、小さい町なのに、赤いジャケットを着た約50名の女性が花壇の手入れを行い、花植えや草取りをしていたのを見ました。

私は町長に聞きました。

—すごいですね、これだけ多くの人が一堂に会し、花壇の手入れのような軽作業をされるのは、多分この町が財政的に豊かだからでしょう。

町長が答えました。

—いいえ、豊かな町ではありません。借金だらけです。でも、町はきちんとしていないといけません。これが私の目標です。

当時、私たちは商品のない空っぽの棚や完全に崩壊した行政システムから脱却したばかりです。だからこの言葉は宇宙の遠い話のように響きました。でもこの言葉は強く記憶に残ったのです。

この旅の後、私が首長をしていた北の町が、西シベリアで最も整備された町になりました。その後も都市計画や公共空間の整備をたくさん手がけました。あの時見た町の景色が今でも目に焼きついています。

最後に東京に行ったのは、つい2-3年前です。そこで感じたことは、国は違っても地域や都市が抱える問題点は、どこも変わらず同じようなものということです。東京は地下鉄や道路、立体交差が優れています。でも私は、モ

スクワも東京も交通問題の解決について、ほとんど同じレベルにあると感じました。モスクワも道路渋滞や都市内移動、都市集中の改善のために多くの資金を投入しています。皆様もそうですが、私達は市民が自宅を出て自動車やバスに乗り、スムーズに職場にたどり着くための公共交通機関ができる限り快適で環境に優しいものになるように努力しています。これが大都市や発展途上の地域にとって最も重要な問題です。

もうひとつ新しい課題として、昔はなかった、ここ10-15年ほど目立ち始めた急速な高齢化問題があります。現在市内60万人以上が80歳以上です。数年後に100万人を超えるでしょう。日本でも遠隔地や地方が同じ状況にあります。住民が年齢を重ね、高齢化していくのです。しかし高齢者と話をすると、彼らは社会に積極的に関わり、必要とされることを望んでいることが良くわかります。彼らは家の中や屋外で無為に時を過ごすことを望んでいません。彼らは人生を謳歌したいのです。私達と皆さんの課題は、高齢者が人生を謳歌できる機会を提供する一方、他方でしっかりした医療サービスを提供することです。これは非常に難しいことです。でもこれこそ毎日私たちが取り組んでいる課題です。

世界の競争はどんどん激しく、ハードになっています。もちろんこのような変化は、いま暮らしている住民にあまり関係ないと、言うことも可能です。私達もこれに対してなんら影響力を行使することはできません。しかし私達は教育問題に取り組みつつ、子供たちが地域や国や世界で競争力のある人材になれるように直接的な影響を与えることができます。私達は皆様と共にこの問題に大きな注意を払っています。

子供は大きなストレスを感じています。私達たちが知識を詰め込み、課題を与え、教育を受けさせています。これがとても重要な事であると理解しているからこそ、意識的に行なっています。この分野の経験交流は大きな可能性を秘めています。なぜなら日本の学校教育制度がとても強い競争力を持っていることを世界中が知っています。私達はそれぞれの地域がこの分野で何をしているのか、たくさんのお話を語ることができるでしょう。

私達たちが直面するまったく新しい変化として、バーチャルリアリティがあります。時々、人々が、「重要なのは、現実の生活で起こっていることではなく、私達を感じるもの、思い浮かべるものである」と話しています。情報技術は私達の近くまで来て、存在するのは明らかですが、素通りもします。一方で地域社会のあらゆる分野で行政や住民対策についてまったく新しいアプローチが求められています。いわゆる「スマートシティ」は、単なる美しい方程式ではありません。これはグローバルな方向性であり、これ無しに都市や地域の発展は不可能です。効率的な行政も不可能であれば、情報技術やインターネット、デジタル技術なしに情報を的確に市民に届けることも不可能です。地域が発展すればするほど、人口集中が進み、地域行政や住民対策がより複雑になります。いま私達が行なっていることは、己のためでも抽象的な国家のためでもありません。まず第一に人々のためにやっています。だからこそ、ひとつひとつの施策や行動は住民の利益になるものでなければなりません。私達はそれを感じるべきであり、新しい技術の導入や民間外交は、地域の大小様々な問題の解決に資するものでなくてはなりません。新しい技術や電子投票、住民との連携なしにこれを実現することはできません。この問題は出席者全員が直面している時代の挑戦です。だからこそ地域開発に必要な様々な分野をどのように発展させるべきか意見交換が重要です。

マトヴィエンコ議長が正しく指摘したとおり、両国には相互関係の長い歴史があります。そして素晴らしい現在があります。しかしもっと良いことがこれから起こると信じています。本日の会合はこのことの良い後押しになり、素晴らしいスタートになると思います。ありがとうございます。モスクワによるこそ。

コサチョフ国際問題委員長

引き続き挨拶を日本全国知事会会長、埼玉県知事の上田清司様にお願いいたします。

上田全国知事会会長挨拶

こんにちは。日本の全国知事会及び今回参加の知事を代表して、一言御挨拶申し上げます。

まずは、マトヴィエンコ連邦院議長をはじめ連邦院の皆様におかれては、我々日本の全国知事会をお招きいただき、このような機会を設けてくださったことに厚く御礼申し上げます。

また、ソビヤニンモスクワ市長をはじめ、ロシア連邦構成主体のトップの皆様が、公務御多忙にも関わらずお集まりいただき、我々を温かくお迎えいただいたことに心から感謝申し上げます。

さて全国知事会は、旧ソ連時代を含め1968年12月以来50年の長きに渡り15回の知事会議を開催し、皆さんとの交流を深めてまいりました。全国知事会での交流に加え、個別の地方政府間の関係強化も進めてまいりました。例えば、今回ホスト役を務めていただいているモスクワ市は、日本の首都である東京都と1991年に友好都市となっています。

日本の47都道府県のうち、本日参加している北海道、富山県、鳥取県を含む11団体がロシア連邦構成主体と姉妹都市などの提携を結び、地方政府間での交流を深めています。

加えて、3年前にソチで行われた日露首脳会談においては、安倍総理とプーチン大統領の間で具体化することとされた8項目の協力プランの一つに、「両国間の多層での人的交流の飛躍的拡大」が掲げられました。

これを受け、昨年5月に「日本におけるロシア年」、「ロシアにおける日本年」が開幕し、ロシア国内においても幅広い分野で「日本」を紹介する多くの行事が行われてきたと伺っています。

日ロ両国の地方政府間においても、日本政府の後押しもあり、栃木県とカルーガ州、福岡県とウリヤノフスク州などの中で、新たな交流が始まったところです。

また今年は、富山県とサンクトペテルブルク市の共同開催で第9回シアター・オリンピックが行われます。2つの国の都市で共同開催するのは初めての試みで、6月よりサンクトペテルブルク市で、8月より富山県で舞台芸術作品の上演やワークショップ、シンポジウムなどが実施される予定です。

さらに今後は、スポーツをきっかけにした両国交流の盛り上がりも期待できます。

まず本年9月にはラグビーワールドカップ2019が日本各地で開催されるが、ロシアと日本は9月20日の開幕戦を飾ることとなっています。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されます。

そして、昨年のオリンピックのフィギュアスケートで見事金メダリストとなったアリーナ・ザギトワ選手が、日本から送られた秋田犬のマサルと友情を育む様子は、多くの日本人が微笑ましく見守っているところです。

これらを通じてロシアの皆さんに改めて日本に関心を持っていただき、大勢の方に来日していただくことで幅広い分野での相互理解や交流につながればと考えています。

このような機運の中、日ロ知事会議を盛大に開催できたことは大変喜ばしいことであります。

本会議では、「地方における中小企業の発展」「技術革新への支援」など4つのテーマが議題に上がっています。この日ロ知事会議の場で両国の知事同士で忌憚のない意見交換を行い、地方政府としてお互いに高めあう良い機会としたいと思います。

私たち日本の都道府県は住民に近い行政主体であります。今回のような地方政府間の交流は、住民レベルで相互に親しみと絆を深めていくことにつながるものと、私は考えています。

本日の日ロ知事会議が、両国から参加した皆様にとって実り多きものとなるよう願っています。

今回は47名いる日本の都道府県知事のうち、8名の知事が参加しています。最後に私以外の7名の知事を紹介したいと思います。

北海道の鈴木知事、茨城県の大井川知事、富山県の石井知事、岐阜県の古田知事、鳥取県の平井知事、岡山県の伊原木知事、鹿児島県の三反園知事の合計 8 名であります。

そのほか、全国知事会の古尾谷事務総長です。

本日は、よろしくお願いたします。

コサチョフ国際問題委員長

ありがとうございました。続いて、参議院議員逢沢一郎日ロ友好議員連盟会長のお祝いの言葉を伊原木隆太岡山県知事が代読します。

伊原木岡山県知事 – 参議院議員逢沢一郎日ロ友好議員連盟会長挨拶代読 –

尊敬するマトヴィエンコ連邦院議長，上田・埼玉県知事，ソビヤニン・モスクワ市長，日露自治体の首長の皆様，9 年ぶりとなる本日の日ロ知事会議の開催を心からお祝い申し上げます。

現在，両首脳のリダーシップの下，日露関係は幅広い分野で発展しています。本会議の開催は，地域間交流を含む人的交流の拡大に資するものであり，今後の二国間関係の裾野を広げることを後押しするものであります。

私は昨年 2 月から日ロ友好議員連盟の会長を務めており，会長就任以降，既に三回ロシアを訪問し，同僚の皆様と交流を重ねてきました。昨年 1 2 月には，議員間交流の更なる進展のため，訪日したシュレポフ国家院対日議員グループ代表と議連間の了解覚書に署名しました。今後も，地域間交流を含め，あらゆる側面から日露関係の強化に貢献していきます。

昨年の FIFA ワールドカップ 2 0 1 8 ロシア大会では，多くの日本人サポーターが訪ロの機会を得ました。相互理解の促進に大きな成果を上げることが出来て嬉しく思います。

今後は文化、芸術、学術そしてスポーツの交流も盛り上げてまいりましょう。

私は岡山県出身ですが，岡山県の笠岡市は茅原基治（かやはら・もとじ）というロシアと縁の深い人物の出身地です。この方が船長を務めた「陽明丸（ようめいまる）」は，1 9 2 0 年，ロシア革命の影響でサンクトペテルブルクからウラジオストクへと逃れてきた子供たち約 8 0 0 名を救出し，太平洋，大西洋を横断してフィンランドに無事に送り届けました。笠岡市の方々は，茅原船長の行動に誇りを持ち，このエピソードを後世に伝えるための活動を行っています。

日露の各地方が有する友好の歴史に目を向けながら，新たな交流へと繋げていくことが重要です。私も日ロ友好議員連盟の会長として，相互理解に基づいた日露関係の更なる発展のための対話を力強く支援していきます。以上です。

2 0 1 9 年 5 月 1 3 日

参議院議員逢沢一郎

日ロ友好議員連盟会長

コサチョフ国際問題委員長

次にベグロフ・サンクトペテルブルク知事代行に発言をお願いします。

ベゴロフ サクトペテルブルク知事臨時代行挨拶

尊敬するマトヴィエンコ議長！親愛なる同僚、友人の皆様！紳士淑女の皆様、こんにちは！近年サクトペテルブルクと日本とのパートナーシップが著しく強化されています。これは、ロシアと日本の相互交流年のおかげでもあります。交流年は両国政府によって宣言され、2018年5月から2019年5月まで実施されています。

これが関係発展と交流拡大の新たな刺激になりました。昨年ペテルブルクは大阪との姉妹都市交流40年を祝いました。日本はペテルブルクの主要貿易相手国トップ10に入っています。当市では約50の日系企業が事業を展開しています。企業にとっても素晴らしい快適な環境が整っていると言えます。私達はあらゆる支援を行なっています。

現在、北海道や横浜市、酒田市、福岡市との協力関係が活発に発展しており、多くの交流事業を策定中です。

日本の投資を誘致したいのは、

- ・ペテルブルク市内のホテル建設
- ・東洋格闘技センター創設
- ・サクトペテルブルク観光情報窓口「Visit St-Petersburg」の開設（東京・大阪）

また日本の自動車産業のペテルブルクへの更なる進出です。スタートアップ支援においてサクトペテルブルク市は福岡市と連携しています。

2019年5月14日にサクトペテルブルクで「福岡スタートアップ」共同事業が実施されます。ロシアと日本の企業のための第2回コンクールが行なわれます。ユニクロの販売網の拡張も計画しています。2019年ペテルブルク国際経済フォーラムのパートナー国として日本の参加の可能性が検討されています。2019年の年間事業カレンダーは盛りだくさんです。5月16-18日-日本地方文化フェスティバル。9月末-サクトペテルブルク代表団の横浜訪問。10月-大阪デー in サクトペテルブルク。2019年度中に北海道と横浜市との協力に関するワーキンググループ会合が予定されています。

本年はボリス・エイフマンバレエ団とミハイロフ劇場室内楽団の日本公演が計画されています。現在、北海道の人形浄瑠璃 あしり座のペテルブルク公演の可能性が検討中で、市民が心待ちにしています。是非実現したいと思います。ペテルブルクでは毎年「日本の春」と「日本の秋」フェスティバルが行なわれています。皆様、是非いらっしやってください。これは当市にとってもビッグな素晴らしいイベントです。日本の関係者の皆様の積極的な参加と、ペテルブルク市民に与えて下さる喜びに感謝しています。

マトヴィエンコ議長！サクトペテルブルクもモスクワと同じように美しくなりました。今後更に美しくなっています。皆様には、旅行者としてだけでなく、ビジネスパートナーとしてペテルブルクに来ていただきたいと思っています。

マトヴィエンコ議長！私は連邦院と日本側代表者の皆様に対して、このような会議のフォーマットを作っていたことに感謝いたします。これは我々知事にとって、もちろん日本の知事にとってもとても重要なフォーマットです。議長は言ったことは全くその通りです。まさに高みを目指すためには梯子を作る必要があります。私達はこの梯子の一番目のステップを作ったと考えています。駐ロシア日本国大使館と在ペテルブルク日本国総領事館に、日本の諸都市と当市との交流拡大にご尽力をいただき深く感謝しています。ありがとうございました。皆様、サクトペテルブルクにお越し下さい。

コサチョフ国際問題委員長

これほど立派な日本国知事団の編成にご尽力を賜り、このことに感謝しつつ、ここで上月豊久駐日日本国特命全権大使にお言葉を頂戴いたします。

上月駐口日本国大使挨拶 – 世耕産業経済大臣兼ロシア経済協力大臣挨拶代読 –

尊敬するマトヴィエンコ議長！尊敬するソビヤニン市長！尊敬する紳士淑女の皆様！本日はこの知事会議に出席する機会を賜り、大変嬉しく存じます。この席に日本とロシアから約 30 名の知事が集まりました。これは知事の交流史上初めてです。この歴史的出来事を私は大使として大変嬉しく思っています。この会議宛の世耕産業経済大臣兼ロシア経済協力大臣からのメッセージがあります。残念ながら世耕大臣の出席は叶いませんでしたが、大臣は心より盛会を願っています。では日本語で読み上げます。

尊敬するマトヴィエンコ連邦院議長、上田・埼玉県知事、ソビヤニン・モスクワ市長、日露自治体の首長の皆様、日口知事会議の開催にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

まずは、5 月 5 日、モスクワのシレメチエヴォ空港において発生した民間航空機の炎上事故の犠牲者の御遺族に対して、心からのお悔やみをお伝えするとともに、謹んで犠牲者のご冥福をお祈りいたします。

現在、両首脳のリーダーシップの下、日露関係は幅広い分野で発展しており、特に、経済分野においては、私が担当する 8 項目の「協カプラン」に基づき、170 を超える民間プロジェクトの具体化が進められています。今回の日口知事会議の開催は、「協カプラン」に含まれる人的交流の拡大にも資するものであり、歓迎します。

私はこれまで、「参議院自由民主党・日露議員懇話会」会長として、コサチョフ連邦院「露日議会間・地域間協力支援協議会」会長と両国の地域間交流の発展の重要性について認識を共有し、日口知事会議の再開を含め、議論を積み重ねてきました。本年も福岡県にて「懇話会」と「協議会」との間の次回会合を開催する予定です。本日、ここに日口知事会議が 9 年ぶりに開催されることは大変喜ばしく、両国の参加者の皆様に心からお祝い申し上げます。

残念ながら私は参加が叶いませんでしたが、本会議の開催が日露の地域間交流に大きな弾みを与えることを確信しております。私も日露関係の更なる発展のために、全力を尽くす所存です。

2019 年 5 月 13 日

経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣

「参議院自由民主党・日露議員懇話会」会長 世耕弘成

以上が世耕大臣からのメッセージになります。

私からも一言申し上げます。

2016 年 11 月のマトヴィエンコ連邦院議長の訪日は、日露間の議員間交流及び地域間交流の大きな弾みとなりました。今回、マトヴィエンコ議長の提案により日口知事会議が再開されることになりました。マトヴィエンコ議長の先見性あるイニシアティブに、心から敬意と感謝を表します。

現在の日露間では安倍総理大臣とプーチン大統領による活発な政治対話が行われております。安倍総理大臣は、日露関係の強化のために強い意志をもって尽力されてきています。今回のような知事の間での協力強化は、日露関係全体の発展に重要な貢献をなし得るものであります。

ロシアには広大な国土があり、地方はそれぞれ個性を持っています。日本にも、地方ごとに特色と強みがあります。それぞれの地域の発展において大きな役割を果たすのが知事の皆様であり、今後の両国の地域間交流の発展の主演となられる方々です。

現在開催中の日露交流年では、ロシア各地で 544 件の行事が開催され、のべ約 110 万人が参加しました。積極的に参加いただいた日露両国の各地方の皆さんに心より感謝申し上げます。

この日露交流年のモーメントを維持しつつ、今後地域間交流をますます発展させることが今後の課題です。本
日ご出席の知事の皆様が活発かつ有意義な議論を行っていただくことを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。
(以上)

マトヴィエンコ連邦院議長 (43:43)

尊敬する皆様！改めまして、上田清司全国知事会会長、日本の同僚の皆様、とてもハイレベルの日本国知事
代表団の皆様にご挨拶申し上げます。昨今ロシアを訪問した中では、最もハイレベルな知事代表団ではないでしょ
うか。本会議の開催に向け大変なご準備頂きましたことに感謝いたします。

世耕経産大臣に対して、ご挨拶を頂戴したことと、日頃より地域間協力の発展にご尽力を賜り、感謝の意を表
します。

大使閣下におかれましては、この会議が今日こうして実現するためにご支援ご尽力をいただき、衷心より感謝いた
します。

私たちはとても良いフォーマットを作ったと思います。これについては同僚がすでに話しました。ロシアと日本の知事
が間近で顔を合わせる場所－ここには素晴らしい可能性があります。新たなプロジェクトを発案したり、新しい構想
を話し合い、経験を共有し、互いに学ぶ、また新たな技術を導入する等等。

ここで改めて、私達、連邦院が今後もこの会議の活動を可能にするための主催団体になることを再度お約束いた
します。

コサチョフ委員長ほか連邦院議員の皆様！これまでの多大なるご尽力に感謝いたします。次の会議が決まりまし
たら、改めてご連絡いたします。

そしてソビヤニン・モスクワ市長にも感謝の言葉を述べたいと思います。この会議をこのようなレベルで開催するこ
とを可能にして下さいました。またロシア側の知事の皆様にも感謝いたします。ここで参加している知事を紹介します。

- ・ツィデノフ・アレクセイ・サンブエヴィチ-ブリヤート共和国首長
- ・ゲーセフ・アレクサンドル・ヴィクトロヴィチ - ヴォロネジ州知事
- ・ヴォスクレセンスキー・スタニスラフ・セルゲーエヴィチ - イヴァノヴォ州知事
- ・アルタモノフ・アナトリー・ドミトリエヴィチ - カレーガ州知事
- ・イリユーヒン・ウラジーミル・イヴァノヴィチ - カムチャッカ地方知事
- ・シトニコフ・セルゲイ・コンスタンチノヴィチ - コストロマ州知事
- ・アルタモノフ・イーゴリ・ゲオルギエヴィチ - リペツク州知事臨時代行
- ・エフスチフェーエフ・アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ - マリ・エル共和国首長
- ・ヴォロビヨフ・アンドレイ・ユーリエヴィチ - モスクワ州知事
- ・チービス・アンドレイ・ウラジミロヴィチ - ムルマンスク州知事臨時代行
- ・ニキーチン・グレブ・セルゲーエヴィチ - ニジニーノヴゴロゴ州知事
- ・ミーニナ・ヴェロニカ・ヴィタリエヴナ - ノヴゴロド州第一副知事
- ・コジェマコ・オレグ・ニコラエヴィチ - 沿海地方知事
- ・ベグロフ・アレクサンドル・ドミトリエヴィチ - サンクトペテルブルク知事臨時代行
- ・ニコラエフ・アイセン・セルゲーエヴィチ - サハ共和国（ヤクーチヤ）首長

- ・ムハメトシ・ファリド・ハイルロヴィチ - タタルスタン共和国国会議長
- ・ジヴァチキン・セルゲイ・アナトリエヴィチ - トムスク州知事
- ・モロゾフ・セルゲイ・イヴァノヴィチ - ウリヤノフスク州知事
- ・フルガル・セルゲイ・イヴァノヴィチ - ハバロフスク州知事
- ・ミローノフ・ドミトリー・ユーリエヴィチ - ヤロスラヴリ州知事

その他サハリン州など他の連邦構成主体の代表者が出席しています。また連邦院議員や国家院議員、中央省庁の幹部も出席しています。国際文化協力担当ロシア連邦大統領特別代表兼特命大使シュヴェイトコイ・ミハイル・エフィモヴィチ氏も出席しています。

同僚の皆様！どうもありがとうございました。この2日間は盛りだくさんのプログラムになっています。内容のあるプログラムになると信じています。明日は連邦院で会談があります。会議の成果として共同提案（レコメンデーション）を作りましょう。そして私たちがロシア連邦大統領に会議の報告書を上奏します。

上田知事には総理大臣宛の報告書を作成していただきたく存じます。このようにして、来る首脳会談に向けて両首脳に準備をしていただきたいと思います。日関係発展の展望に関する地方の見方はとても良いサポートになると思っています。改めて皆様ありがとうございます。会議の成功を祈ります。

（司会）尊敬する同僚の皆様！親愛なる友人の皆様！ロシア日本知事会議の開会を宣言します。

マトヴィエンコ連邦院議長

すなわち、閉会ですね。第1部です。ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

尊敬する同僚の皆様！

ロ日知事会議第 1 セッションを始めます。本日は 1 日かけて 4 セッション構成で会議を行ないます。なお、会議と平行して数多くの 2 地域間協議や 3 地域間協議が実施されます。では会議を始めます。

第 1 セッションは、最も広いテーマであるロ日関係における地域間協力の役割です。私はこの第 1 セッションのモデレータのコンスタンチン・コサチョフと申します。連邦院議員です。マトヴィエンコ議長の指示で連邦院ロ日議会間地域間協力支援協議会長をしています。その関係でいま大使がメッセージを代読した世耕経済産業相と一緒に仕事をさせていただいています。

ご存知の通り、地域間協力はとても幅広いテーマです。より具体的な話をする中で、ロシア連邦構成主体や日本の都道府県が抱える現状の様々な側面にスポットを当てたいと思います。

喜ばしいことに、このセッションへ参加を表明した会議参加者が一番多く、事前に登録した発言希望者が 10 名です。よって皆様のお許しを得て、発言者に発言時間 5 分以内の遵守を厳しく要求させていただきます。唯一例外として基調報告を行なう 2 名のみ 7 分間を与えます。2 人目の共同基調報告者が石井隆一富山県知事です。ご準備ください。

最初にヴォスクレセンスキー・イヴァノヴォ州知事に発言をお願いします。彼は知事になる前から、ロ日関係やロ日地域間交流にとっても積極的に、かつプロフェッショナル的かつ肯定的に関わってきました。ロシア連邦経済発展省第 1 副大臣としてとても多くのことを成してくれました。ヴォスクレセンスキー氏はこのテーマに対する嗅覚を失っていないと思います。現在はイヴァノヴォ州知事として、地方からこのテーマがどのように見えるのか、その経験を話してくれるでしょう。

ヴォスクレセンスキー知事、お願いします。

ヴォスクレセンスキー・イヴァノヴォ州知事

ありがとうございます。こんにちは。ヴォスクレセンスキー・スタニスラフと申します。2018 年イヴァノヴォ州知事に選出されました。司会が述べたように、以前私は中央政府で、ロシアと日本の貿易経済関係発展の仕事をしていました。

2016 年、安倍首相が両国の協力 8 項目を提案しました。それに対してロシア政府は可能性のある共同プロジェクトリストを提示しました。このようにして両国の国民や企業間の長期的な信頼醸成を目指した総合アクションプランが生まれたのです。

これまでにいくつかのプロジェクトが動いています。それは製薬分野やハバロフスク空港整備合併企業や労働生産性分野の協力です。

正直に申しますと、これまでやってきたことは購買力平価で世界 4 位と 6 位の経済を持つ両国の関係の潜在力に決してふさわしいものではありません。今日、世界は再び新たな技術革命を経験しています。単純に新しい企業が作られるのではなく、新しい産業が生まれています。伝統的な産業分野でもアプローチが変わっています。

このような条件下において、一緒に企業を設立して第 3 国市場に進出することも可能です。ロシアの創造力と発明力を日本の改良力と掛け合わせれば、驚くほどの結果と成功を収めることができます。

しかしまだそれは起こっていません。それは 20 世紀の古い傷の解決の外交対話が何十年も長引いているせいかもしれません。外交は外交官に任せましょう。

本当の信頼とは市民や企業、知事の間にも生まれるものです。ロシアと日本は多様性に富み、それぞれの地方や県は独自性を有しています。

私達は、経済・文化・スポーツ分野など安定した協力関係のためのしっかりした基礎を共に築くことができると信じています。

モスクワからロシアの大河ボルガ川の河畔にあるイヴァノヴォ州まで 3 時間 40 分の快適な旅が貴方を待っています。半径 100km に大都市ヤロスラブリ、コストロマ、ウラジミルがあります。

イヴァノヴォ州の宝は人間です。100 万人以上の勤勉な住民がいます。19 世紀初めから世代を超えて繊維産業が盛んでした。国内の木綿製品の 85%が我州で生産されています。州内にはイタリア系やトルコ系企業を含め 270 以上の繊維産業企業が活動しています。

ロシア最大のトラッククレーンメーカーをはじめ機械製作企業群が立地しています。大手パラシュートメーカーや日本のコマツに建機用シャベルを輸出している工場もあります。

イヴァノヴォ州は工業だけでなく、工芸品も有名です。ロシアアイコン画の聖地パレフとホルレイがあります。2 つともロシアだけでなくヨーロッパでも有名です。パレフの人口は 4000 人ですが、その約 600 人がプロの工芸家です。先祖代々続く多くの家系が残っています。中には 8 代 9 代と伝統芸術を守っている家族もあります。

イヴァノヴォ州は教育の中心地です。イヴァノヴォ市内に電気、化学、機械製作、医学、農業などの大学やアカデミーが 7 つあります。ロシア国内の電力会社の技師長の大多数がイヴァノヴォの大学出身者です。

2017 年、当市の電力大学に三菱電機が最新式コントローラーとコンバーターの適用技術試験のための研究室を開設しました。

教育レベルが高いことから、複数のロシア大手企業が事務所、いわゆる「バックオフィス」を開設しています。例えば大手保険会社ソガスや大手電力会社インター-RAO などです。

我が州の特徴は保健医療です。私達は近代的な保健医療システムを社会保障としてだけでなく、地域経済の重要分野として築きたいと考えています。州内に有名な医科アカデミーがあり、プーチン大統領が提唱する国家保健医療計画の推進と大都市へのアクセスの利便性をバックにして、かならず成功するでしょう。

医療分野の大手医療機器メーカーで磁気刺激装置を製造している「ニューロソフト」社が長年活動しています。この会社は欧州、米国、オーストラリア、東アジアなど世界 65 カ国に製品を輸出しており、日本市場への参入も計画しています。

我が州の企業は競争力アップのため、常にカイゼンを目指しています。そのため本年 3 月 ROTOBO と共同開催した労働生産性セミナーは大盛況でした。

最後に、ロシアの各地方と日本の都道府県との関係発展は、かならずや両国民の福祉に役立つものと確信しています。

本日は朝から古田岐阜県知事と会談しました。この素晴らしい美しい県と建設的な協力関係ができることを期待しています。

どのように日本のパートナーと仕事をすべきかはわかっています。互恵的協力のために必要な最も好ましい環境を作ります。ご清聴ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

ヴォスクレセンスキー知事、ありがとうございました。

次に石井隆一富山県知事の発言です。サハリン州代表ゲーティン氏は準備をお願いします。

石井富山県知事

富山県知事の石井でございます。テーマが日ロ関係における地域間協力の役割ということですので、私からは、富山県とそれからロシア沿海地方をはじめ、ロシア各地域との交流についてご報告したいと思います。

富山県は東京、大阪、名古屋の3大都市圏から近く、4年前に北陸新幹線が開業しましたので、東京と富山が、約2時間で結ばれております。

私ども、富山県は、今から27年前、1992年に沿海地方と友好提携の関係になりました。2016年に安倍総理がプーチン大統領に提案して合意された、8項目の経済協力プランの主な取り組みとしまして、地域間交流が位置づけられましたので、私も2年前にあらためて沿海地方、ウラジオストクを訪問しまして、当時の沿海地方知事さんと新しい協定、内容は貿易、経済、保安、それから空港、環境、文化の交流、観光、環境汚染、こういったような各分野の協力関係を進めましょうという協定を結んでおります。

これまで、27年間、ロシア沿海地方からの留学生や、また技術研修員の受け入れをはじめとしまして、沿海地方で日本語スピーチコンテストを開催したり、人的交流を積み重ねてまいりました。また、文化の分野でも、とやま世界子ども舞台芸術祭、これは4年に1度で、世界の子どものための舞台芸術祭としては3大芸術祭の1つと言われていますが、こちらにも沿海地方の児童劇団などにご参加いただいております。

それから、2年前にロシア全土で初の、ロシアにおける日本年事業として認定された、とやま文化DAYSというのも、ウラジオストクの国立経済サービス大学をお借りして開催いたしました。富山の伝統工芸品ですとか、お酒、食べ物の魅力を大変楽しんでいただきました。

富山県にとって、ロシアは主要な貿易相手国でございます。富山県の伏木富山港は、日本海側で唯一の定期コンテナ航路ですとか、日本では初めてのウラジオストク港との定期RORO船航路を有しております。このコンテナ航路と、RORO船を合わせますと、全国、日本では一番多い月15便となりまして、また輸出では、日本で最もリードタイムが短くて、対ロシア物流の拠点となっております。

伏木富山港からウラジオストクを経由して、貨物をモスクワまで送る際、従来24日程度かかっていたところを、2年前にロシアにあらためて訪問しまして、ロシア極東航路を運用、運行する船会社であります、FESCOのウラジオストク支社長から、これから何とか14日でウラジオストクからモスクワまで運びたいと、こういった言明もいただきました。そこで、ロシア側の通関手続き、または鉄道等の定時制、速達性が確保されると、今日本の物流ですね。日本で作ったものは、ほとんどスエズ運河経由でヨーロッパに行きますから、このシベリア鉄道の、定時制、速達性が達成されると、世界の物流に大きな影響を及ぼすと期待をしております。

この左下のほうにあります、今から107年前の1912年に日本の著名な歌人の与謝野晶子が、東京から敦賀、ウラジオストク経由でシベリア鉄道を使ってモスクワに行ったときには、12日間で着きました。そのうち、ウラジオストクとモスクワの間は9日間で到達しております。もっともっと速く、シベリア鉄道の速達性が実現できるんじゃないかと思っております。

そこで、富山県も日本のいろんな企業にシベリア鉄道の便利さを実証して説明したいと思ひまして、2014年からこの貨物輸送について、荷主企業に対する補助制度も創設してまいりました。昨年はFESCOの協力もいただいて、モスクワまでの輸送日数の検証を2回実施しましたところ、1回目は16日間、2回目は19日間と、従来に比べて、輸送日数が一定程度短縮されることが確認できました。

また、ウラジオストクでの通関手続きは、2017年までは、多いときは11日間とか12日間かかっていたのが、2018年の実証実験では3日から5日に短縮されました。ただ、日本ではこの通関は1日で普通済んでおります。中国の上海港でも、1日か2日。韓国の釜山では1日か2日と、こういうことでありますので、更に便利にできるんじゃないかと期待をしております、それは日本とロシア、双方の利益にかなう、こういうふうを考えているわけでありませう。

それから、富山県は医薬品の生産額が日本で一番でありますとか、アルミの加工産業なども日本一であるとか、製造業が大変盛んな県でございます。今年 10 月には、ものづくり総合見本市を、2 年に 1 度やっておりますけれども、開催いたします。2 年前は 440 社。うち、外国からは 13 カ国で 150 企業。うち、ロシアからは 4 企業に参加していただいておりますけれども、今年は更に外国からも多くの企業にご参加いただくことになっておりまして、またロシアからもご参加いただきたいと思います。

それから、2001 年のモスクワで開催された、第 3 回シアターオリンピックの際に、プーチン大統領が鈴木忠志氏をはじめ、シアターオリンピックの国際委員と懇談されたことがきっかけで、富山県で日露文化フォーラムが開催されて、そのときには、今日もご出席のミハイル・シュヴェイトコイ ロシア文化映画庁長官などもご参加になりました。

このシアターオリンピックは、ギリシャとかロシアで言うところのユリー・リュビモフさんとか、日本の鈴木忠志氏といったような、世界的な演出家、劇作家が結成した演劇祭で、1 回目が 1995 年ギリシャ、2 回目が日本、3 回目がロシア、モスクワで開催されております。

今年は、このシアターオリンピックの祭典史上初めて、日本とロシアの 2 カ国共同開催となりまして、ロシアでもサンクトペテルブルク、日本では富山県で開催することにいたしております。これは、2017 年の 11 月にプーチン大統領に、芸術監督の鈴木忠志氏と、ロシアのヴァレリー・フォーキン氏が面談をして、プーチン大統領が共同開催を了承されて進めているものであります。ぜひ成功させたいと思っております。

あと、富山県は大変観光の魅力がたくさんあるところですが、これは省略したいと思います。次、お願いします。

それから、富山県はユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟をしております。今年 10 月、日本で初めて、この「世界で最も美しい湾クラブ」の世界総会を開くことにいたしております。お魚とかお酒が大変おいしいところですから、ロシアの皆さんにもぜひおいでいただきたいと思っております。

最後になりますけれども、富山県には国連の NOWPAP という環境問題の専門機関がありまして、北東アジア地域自治体連合、環境の自治体の連合があるんですけれども、その分野の環境分野のコーディネーター自治体を富山県が務めておりまして、ロシア沿海地方とか、ハバロフスク地方等々と連携しながら海洋ごみ対策、環境教育、青少年交流などを進めております。こんなことで、これからも富山県は沿海地方やハバロフスク地方、サンクトペテルブルク、いろんなところとロシア各地との交流を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。スパシーバ。

コサチョフ国際問題委員長

ありがとうございました。

次はサハリン州ゲーディン副首相です。三反園知事はご準備ください。

制限時間をきちんと守ってください。5 分が最大です。

ゲーディン・サハリン州副首相

どうもありがとうございました。こんにちは、紳士淑女の皆様！

サハリン州にとって日本は最も近い隣国であるばかりでなく、主要な貿易相手国のひとつです。次の数字がそれを明らかにしてくれます。2018 年のサハリンと日本の貿易高は 52 億ドルで日露貿易の 23%、極東全体の約 80% です。

大手日本企業の参加で石油ガス分野の大規模プロジェクト「サハリン 1」「サハリン 2」が推進されています。サハリンで生産される LNG、石油、石炭、海産物の大部分が日本に輸出されています。

地域間協力関係の発展において特別な役割を果たしているのが北海道との幅広い交流です。昨年両地域の友好経済協力提携 20 周年を祝いました。

この提携に基づいて、貿易経済関係や人的・文化交流が拡大しています。またサハリン州と北海道との姉妹都市交流も盛んです。

この間、両地域の首脳同士のとても暖かい実務的な関係が築かれました。この場をお借りして新しい北海道知事にご挨拶申し上げます。今後も両地域の関係が更に発展することを期待しています。

北海道企業は建築や道路修理など都市インフラ整備事業などサハリン州の発展に積極的に関与しています。また合併企業「ほのかサハリン」は「山の空気」先行発展区の観光分野の入居企業です。現在、温泉入浴施設の建設プロジェクトを推進しています。

サハリン企業が日本市場に進出した例もあります。それはカルヴィー社で、日本国内で自社の窓枠を成功裏に販売しています。

しかし 2 地域間協力のポテンシャルが完全に活用されているわけではありません。私達の可能性はもっとも大きいものです。

日本はサハリン州の水産業に関心を持っています。サハリンとしては日本のパートナーに州内で魚介類の高度加工を行なうことを提案しています。将来的に州内の需要をまかなうだけでなく、アジア太平洋諸国への輸出を高めたいと考えています。

木材加工分野の協力も面白いテーマです。今現在、農業、スポーツ観光、交通分野に関する大型プロジェクト実現のための条件が整っています。

サハリン州としては、社会・文化施設建設や港湾整備に関する日本企業の提案を検討する用意があります。それは第一に、コルサコフ商業港であり、また日本時代の文化遺産の修復です。

同時にサハリンメーカーの製品の日本向け輸出拡大に関心があります。具体的には食品で、サハリンの山菜やベリー類など安心安全な食品の輸出です。

もうひとつの有望な協力分野が観光です。サハリン州の観光客で一番多いのが日本人です。日本人観光客は、サハリン州訪問に当ってコルサコフ・稚内航路や様々なクルーズ船を使って、72 時間査証免除制度を利用しています。旅客数を大幅に増加させるため、サハリン州政府はサハリン観光発展構想を策定しました。その中で観光インフラ、交通インフラ、都市機能の整備および観光ルート開発や観光の多様化を目指しています。具体的にはクルーズ観光、歴史ツアー、エコツーリズム、民族学観光などです。

また、ガンや心臓血管疾患の診断治療、リハビリテーションに関する日本の最新技術に注目しています。北海道の病院と協定や目標を定め、協力をすすめています。この分野の連携を更に拡大したいと考えています。

地域間協力における人的交流についてお話します。北海道とはロシア語日本語教育分野で素晴らしい協力をしています。毎年サハリンと北海道で弁論大会が行なわれています。善隣関係強化に重要な貢献をしているのが青少年交流やスポーツ交流です。

尊敬する連邦院議員の皆様。現在我が国は査証手続きの簡素化に向けて多くのことをしています。これは間違いなく地域間連携を発展させるものです。

ロシア側は「自由港ウラジオストク」の枠内で電子ビザ取得システムを導入しました。日本側はビジネスビザと観光ビザ取得を簡素化しました。

大きな変化は、両国民の一部の人々にとって 3 年マルチビザの取得が可能になったことです。両国の地域間を無査証で訪問できる形態を拡大するなど、この方向で更に進んで行くべきです。

そこでサハリン州政府として、サハリンと北海道間の無査証制度の導入の提案をしました。現在外交当局間でこの問題を検討中です。北海道庁が私たちのイニシアチブを支持してくれるものと期待しています。どうもありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。

次は三反園鹿児島県知事、どうぞ。コジェマコ沿海地方知事は準備をしてください。

三反園鹿児島県知事

鹿児島県知事の三反園です。前の画面を見てください。これは鹿児島市内で、前に山がありますが、あれは桜島といいまして、活火山です。活火山をこのように近くで見られるのは、世界でも鹿児島ぐらいです。鹿児島は観光が盛んで、宿泊者数だけで年間 830 万人という観光の県です。また、農業も盛んであり、産出額が 5,000 億円あります。観光と農業の県、それが鹿児島です。

では、鹿児島は日本のどこにあるかといいますと、日本列島の本土最南端が鹿児島県であり、東京と鹿児島の間は、飛行機が 1 日 22 便飛んでいて、1 時間半で行ける、非常に便利なところです。

また、鹿児島は非常に古い歴史を持っています。これは 1891 年、当時ロシアの皇太子でありました、ニコライ 2 世が鹿児島を訪問したときに撮った写真です。鹿児島県は、侍の時代に江戸幕府を倒して、近代国家をつくったことで一番有名です。そのようなこともあり、ロシアとのつながりは非常に古いものがあります。ここにありますとおり、世界で初めてのロ日辞典も、鹿児島県人が作りました。

そして鹿児島には薩摩焼という伝統工芸品があります。これは、現在はエルミタージュ美術館にあり、門外不出と言われている、鹿児島からロシアに送られた薩摩焼です。当時、ニコライ 2 世の戴冠式に贈られた薩摩焼ですが、これが何と、ロシア側の御厚意により、昨年鹿児島に初めて里帰りすることができ、多くの方に見ていただきました。

次に、鹿児島の地域間交流ですが、現在は、香港、シンガポール、中国、そして韓国との地域間交流を積極的に進めています。特に香港とシンガポールに関しては、隔年毎に知事と先方政府の代表者、例えばシンガポールの場合は外務担当大臣が訪問しあっており、非常に関係を強化しています。また、アメリカとの関係も強化していて、鹿児島はジョージア州と姉妹盟約を結んでいます。そしてイギリスのマンチェスター・シティ、及びロンドンのカムデン区とも友好協定を結んでおり、鹿児島は、今、どんどん国際的な地域間交流を進めています。

また、鹿児島で有名なのは非常においしい和牛です。なぜおいしいと言えるかというと、5 年に 1 回、日本で和牛の品評大会がありますが、その大会で日本チャンピオンになったのが、鹿児島の和牛だからです。そして、この鹿児島の和牛は日本一になったことによって、今、世界にどんどん輸出されていて、日本から世界に輸出される和牛の何と 5 割は鹿児島産です。そして、鹿児島の業者 2 社が、ロシアへの輸出の認証も取りましたので、ぜひこの本当においしい、私は神戸牛よりも鹿児島牛の方がおいしいと思っていますから、ぜひこの鹿児島和牛を皆さんに味わっていただきたいと思っています。

また和牛だけではなく、ブイヤカンパチも日本一であり、これについては、既にロシアでも召し上がっていただくことができます。

そして先程、鹿児島は観光が大変盛んだと言いましたが、和牛、自然、温泉など素晴らしいものがあり、鹿児島はウエルネス、つまり健康にいいものがたくさんあるのが特徴ですので、ぜひ一度、鹿児島に来ていただければと思っています。少しだけおさらいしますと、鹿児島は農産物の産出額が 5,000 億円を突破しており、そして輸出額も相当伸びています。外国人観光客数も伸びていまして、クルーズ船にもたくさん来ていただいています。今、非常に乗りに乗っているのが鹿児島ですので、ぜひ、次は鹿児島で皆さんにお会いしたいと思います。

そして、昨夜、非常にいいニュースが入ってきました。鹿児島には、日本を代表するジャパンアスリートトレーニングセンターというトレーニングセンターがあり、ここでトリニダード・トバゴが先日まで合宿を行っておりましたが、昨日、日本で行われた世界リレー選手権で、そのトリニダード・トバゴが、アメリカやジャマイカを破って金メダルを取りました。来

年は東京オリンピックですので、鹿児島、日本を代表するジャパンアスリートトレーニングセンターで事前合宿を行えば、いい成績を出すのは間違いなしということですので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

素晴らしい発言、ありがとうございました。

次はコジマコ沿海地方知事です。どうぞ、ミーコナ副知事は準備をお願いします。

コジェミヤコ沿海地方知事

ありがとう。

尊敬するコサチエフ議員！、尊敬する上田知事！、尊敬する大使閣下！、紳士淑女の皆様、こんにちは！

日本は私たちにとって戦略的重要パートナーです。沿海地方と日本との貿易高は昨年約 7 億 2500 万米ドルでした。

沿海地方には、日系企業が 30 社以上あります。北海道銀行と MUFJ 銀行が事務所を構えています。日本の大手企業トヨタ、三井、住友の支店があります。

また、日本と沿海地方間を、ウラジオストク-東海-境港（鳥取県）定期航路など、船舶会社 5 社が運航しています。札幌、東京とは航空路でつながっています。

沿海地方ではマツダ社の自動車組立、住友商事の高度木材加工、川崎グループの先端技術を使ったルースキー島での電力システム事業などの日投資プロジェクトが順調に進んでいます。

日本企業 6 社が自由港ウラジオストク先行発展区の入居者ステータスを取得して、極東での事業展開における日本企業 6 社は、自由港ウラジオストク先行発展区の入居者ステータスを取得し、極東での事業展開における特惠をご理解いただくに至りました。これらのプロジェクトに対する日本の総投資額は 8000 万米ドルです。6 事業の内 2 つが実現しています。それは、昨年完成した日北医療診断センターとスマート様式のマンション 1 棟です。

現在、沿海地方を 3 度訪問したことのある安倍首相のイニシアチブで、ウラジオストク市内で日建設の再開プロジェクトが動いており、日建設がウラジオストク市のマスタープランを策定しました。日本人専門家のアイデアはウラジオストク市総合計画の変更項目として反映されました。現在沿海地方行政府の提案で都市開発研究所代表者を含めたワーキンググループが作られています。日本企業にマスタープランの実現に参加していただきたいと思っています。

また別な共同プロジェクトについても日本のパートナーと交渉を行なっています。具体的には水産市場の建設、はちみつ、大豆、とうきび、飼料など農製品の日本への輸出、石炭積み替え専用施設の整備などです。

私たちにとってとても重要なことは、日本との地域レベルでの交流拡大です。沿海地方は日本の 7 県：鳥取、島根、富山、北海道、新潟、秋田、大阪と積極的に協力しています。その多くとは 25 年以上の付き合いです。

文化・スポーツ・青少年・人的交流が発展しています。大学間の交流も拡大しており、学生や院生、講師の交流に関する直接的な協定を結ぶようになりました。

2018 年に極東連邦大学は東海大学東京キャンパスに海外拠点を開設しました。北海道函館市には分校があり、25 年以上の歴史があります。

観光分野の発展にも大きな期待をしています。自由港による査証発給の簡素化は日本からの観光客を 44% 増加させました。2018 年だけで日出る国から 20900 人超が沿海地方を訪れました。本年第 1 四半期のデータでは、去年同期 75%のアップです。

沿海地方の観光の目玉の中で日本人旅行者が魅力を感じるの文化プログラムです。マリンスキー劇場沿海地方ステージを中心に、芸術を楽しむたくさんのメニューがあります。日本のバレエ教室と協力して、合同公演やダンサーの研修も行なっています。

それ以外に、ウラジオストク市内にロシアの有名美術館：トレチャコフ美術館、ロシア美術館、エルミタージュ美術館の 3 つの分館を開設するプロジェクトの実現に向けた作業が進んでいます。

尊敬する同僚の皆様！日本との協力に関して沿海地方の経験はとても豊かなものです。すべての分野で日本との交流拡大を目指しています。特に関心のあるのが、交通運輸部門、クルーズ船部門、造船・船舶修理、農産業、水産を含む製造業部門における協力です。

現在、両国の政治関係がハイレベルにあることから、日露協力を質的に新しいレベルに引き上げるためのすべて前提条件が整っています。このような状況を考慮して、自由港ウラジオストクでロシア側が実施している簡素化された査証発給の導入措置を日本側も導入するよう提案することが時機に合ったものと考えます。ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。

ミーニナ・ノヴゴロド州第 1 副知事、お願いします。モロゾフ知事ご準備下さい。

ミーニナ・ノヴゴロド州第1副知事

ありがとうございます。尊敬する同僚の皆様、こんにちは！

ノヴゴロド州はロシア北西部に位置し、その歴史は古く、ロシア国家の故郷と考えられています。千年以上前、ここからロシアの国土拡大が始まりました。ロシアの貴族たちが統治し、ロシア国家を築いたのです。

1862 年ヴィリーキー・ノヴゴロド市にロシア国家 1000 年記念碑が建てられたのも偶然ではありません。日露協力の公式な歴史は、ご存知の通り、1855 年両国が真の友好と通交を定めた最初の合意である下田条約が調印されたことに始まりました。ロシア側を代表して条約に署名したのはノヴゴロド州出身のプチャーチン提督です。是非ご記憶下さい。

ノヴゴロド出身者プチャーチンを代表とするロシア代表団の初訪日は、両国の通商・外交関係以外にも、科学技術協力の始まりとなりました。20 世紀になって日本人技術者が大手持株会社アクロンの創設の手助けをしてくれました。日本企業「東洋エンジニアリング」がアンモニアとリン酸肥料の素晴らしい製造技術を提供してくれました。ご存知かと思いますが、アクロン社は化学肥料の主要企業で、世界トップ 10 のひとつとして世界的リーダーです。

両国関係の歴史は古い時代にさかのぼります。ノヴゴロド白樺文字は 400 年前から有名ですが、日本のカタカナによく似ています。歴史学者がこの文字の近似性がどこから来ているのか論争を続けています。

近年の協力関係として、昨年ビジネスミッションを東京に派遣しました。ROTOBO の協力で「可能性とポテンシャル」プレゼンテーションを行ないました。私達は 2 つの首都の間に位置する物流の優位性を語り、歴史や文化交流について説明しました。現在静岡県が興味を持っています。本年中に協定書の調印を考えています。静岡県にはプチャーチン提督の記念碑もあり、気候的にとても近いものがあります。

記念碑や歴史、経済交流、地理的關係や気候もありますが、今日すでに現実的な投資も行なわれています。昨年ペテルブルク経済フォーラムにおいて松島浩道農水審議官の立会いの下、当州の Belgrankorm 社が日本の企業と有機肥料に関する協定を結びました。

私たちにとって、来年この工場が完成することがとても重要です。1年で連携協力の具体的な成果を示すことができます。最初に議長が話していましたが、今は春で植栽の時期です。すなわち日本の種苗業者が提供してくれたにんじんや大根の種のことです。これらはすでに北西の寒い土地で芽生え始めています。だから私は、本日の知事会議が今後の私達の長い友好・経済・文化・歴史交流に役立つものと信じています。ご清聴ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。モロゾフ・ウリヤノフスク州知事どうぞ。ハバロフスクは準備をお願いします。

モロゾフ・ウリヤノフスク州知事

どうもありがとうございます。尊敬する同僚の皆様！

今日、両国首脳が日露の協業ポテンシャルがまだ開花していないと考える中で、ウリヤノフスク州は8項目に沿って、日本の各地域との協力関係発展を戦略的方向性として位置づけています。

協力発展における優先項目は、貿易投資の拡大、産業協業、労働生産性の向上、スマートインフラと快適な都市環境の整備、グリーン技術、代替電力、中小企業連携、健康寿命技術、医療、人的交流や行政経験交流です。

これら全ての分野を支えるため、より良い世界的経験を元に法律・財政・実務的支援策を作りました。連邦院コサチョフ会長や上月駐日日本国大使、松山参議院議員、菅官房長官、長谷川特別補佐官の支援の下、私達は福岡県など日本のパートナーと対話を持つことが出来ました。本日はこの会議の後で大井川茨城県知事と懇談します。

私たちは信頼しており、それぞれのプロジェクトに真剣に取り組んでいます。正直で真の友情を基本に仕事をしています。

今日、日本はウリヤノフスク州の戦略的なパートナーです。経済分野で日本は主な輸入国であり、貿易相手国125か国中1位になっています。

州内では世界的に有名な日本企業のDMG森精機やブリヂストン、三菱商事、いすゞ、双日、タカタなど10以上の日露投資プロジェクトを進めており、私たちは三井、丸紅、三菱電機、トヨタ、関西ペイントと積極的に仕事をしています。またパートナーである経団連、ROTOBO、ジェトロ、日本ビジネスクラブ、野村総研などと連携しています。

お互いをより良く理解するために、日本文化センターを開設しました。日本の哲学である人づくり、モノづくり、自動化、カイゼン、日本語を学んでいます。大学間の協力を拡大し、青年交流を推進しています。日本青年会議所との会合を行いました。昨年は日本の20以上の県の大学生が参加した日露学生フォーラムを開催しました。

3年前ブリヂストンの工場開設に合わせて国際フォーラム「ポルガの日本の春」を主催しました。今日このフォーラムは日本との協力について話し合う場になっています。このような場を使って、地域レベルの関係を発展させる新しい推進役を探しています。本年第3回目の「ポルガの日本の春」が開催されます。5月15日オープニングで4日間の予定です。

1日目 – 日本経済とビジネスの日

2日目 – 青年の日

3 日目 – 文化の日

4 日目 – 観光スポーツの日

この間ウリヤノフスク市は小さな日本になります。コスプレ、アニメ、日本芸術、日本の技術、自動車のイベントが行われます。コンサートや体験学習、芸能、映画など日本文化の波が参加者を迎えます。

野村総研と協力して創設するユニークな日本産業パークの起工式が行われます。

今年のフォーラムの特徴は第 1 回ロ日青年アートインキュベーターの開催です。日本側から茨城大学の学生が参加します。

皆様におかれましては、ウリヤノフスク州にお越しいただき、この素晴らしいフォーラムに参加していただきたいと思っています。私たちの地域間交流は、間違いなく、両国の協力関係強化のための推進役になるでしょう。

コサチョフ議員！ここでいくつか提案をさせてください。

第 1 に、私は地方自治体間協力のポテンシャルに真剣に注目すべきだと考えています。よって知事会議の指導の下で自治体間対話を設定して、代表団交流を活発に行うことを提案します。

第 2 に、青年交流を地域間協力発展の優先項目にするよう提案します。

第 3 に、地域間観光は間違いなく協力関係の重要な要素です。私たちは地方のトップとして特別なプログラムを策定するなど、この問題に特別な注意を払うべきです。

最後に、日本の知事の皆様に新年号「令和」の時代の訪れと新天皇のご即位をお祝い申し上げます。私たちの会議がこの令和（ビューティフル・ハーモニー）の時代に開催されたことは何かの縁でしょう。この会議が長い友情の道をかならず切り開くと信じています。

そこで将来何度となく知事会議が行なわれ、その実り多き活動に期待を込めつつ、良き伝統としてロ日知事会議史の編纂を開始することを提案したい。私達はこの本を特別に準備しました。ここには両国の平和と和合のため、お互いが望むことを書き込み、提案や賢い決定が記載されることを願っています。これは本日から始められますね。ありがとうございます。

コサチョフ国際問題委員長

モロゾフ知事、ありがとうございました。とても内容のある美しいプレゼンでした。

尊敬する同僚の皆様、このセッションはまだ 3 名の発言者が予定されています。ということはすぐ時間がオーバーしていることを意味します。私の所に数名の人が来て、コーヒブレイクを省略して、第 1 セッション終了後、すぐに第 2 セッションを始めるよう提案しました。そうすれば議事日程上、時間は戻ります。計画されていた 2 地域間会談はそのままの時間で行って下さい。会議出席者がその時間に合わせて退出して結構です。

異議はありませんか？ご理解ありがとうございます。ではフルガル・ハバロフスク地方知事に発言をお願いします。ヤロスラブリ州のミロノフ氏は準備して下さい。

フルガル・ハバロフスク地方知事

尊敬する第一回ロ日知事会議参加者の皆様！ハバロフスク地方はロ日対話の発展にとっても積極的に関与しています。国際舞台において日本はハバロフスク地方の長年のパートナーであり、経済分野はもちろん人的交流も含め、総合的な連携を有しています。

例えば、日本はハバロフスク地方の主要な貿易相手国です。2018 年の貿易高で日本は中国韓国に次いで 3 位でした。貿易額は 2 億 3000 万米ドル。2017 年比で 14.4%の伸びです。ハバロフスク地方の対日輸出品目は、石油、石炭、集材材・製材・丸太など木材製品、魚介類です。

日本との協力についてイノベーション情報技術分野で成功例があります。それは生産プロセスの最適化のためのソフトウェアの提供、快適なビジネス環境の創設およびバーチャリアリティーゲーム学習インターフェイスとアプリ作りです。

日本との協力で有望な分野のひとつが投資部門です。現在州内で日系企業が6社事業を展開しています。また三井、サミットモーター、住友インターナショナルが事務所を構えています。これらは農業、サービス部門、商業、木材加工、医療分野です。

日系企業 JFE エンジニアリングは 2015 年に創設された先行発展区ハバロフスクの第 1 号外国企業入居者です。この会社は野菜温室通年栽培を行なっています。つい最近、第二期工事の温室 4.9 ヘクタールが生産を始めました。2020 年には第三期工事が計画されています。

近年、世界では環境にやさしい燃料に対する需要が高まっており、燃料木質ペレットの将来性のある新たなマーケットが形成されつつあります。ハバロフスク地方はロシアの中でも最も森林資源の多い地方であり、日本向けの木質ペレット生産において優勢性を持っています。2018 に日本の投資で州内に工場を建設する決定が成されました。第 1 期工場が本年中に稼動する予定です。RFP グループやプロスペクト社（日本）が関わっています。

ペレット生産はアムールスク市で行われ、最初は 90000 トンです。

現在日本のパートナーの参加を得たいいくつかの投資プロジェクトが検討中です。

例えば、がん病院の敷地内に陽子線治療センターの建設するものや、ハバロフスク市の空港近代化で計画されている空港シティープロジェクトにおけるインフラ整備です。

これに合わせてお話ししたいことは、ハバロフスクとしては、日本を含む太平洋諸国との交流のためのオープンスカイを求め続けたいと思っています。

ハバロフスク地方は地域レベルで日本の兵庫県、青森県、新潟県、鳥取県と協力協定を結んでいます。これ以外に定期的に北海道や富山県と国際交流を行なっています。

北海道の経済界の代表者がハバロフスク地方で開催される展示会「春の贈り物」や「新年の贈り物」に定期的に参加しています。

2018 年 6 月 28 日北海道副知事を代表とする訪問団が来訪して、ハバロフスク地方国際ビジネスデーに参加しました。

2018 年 3 月第 8 回鳥取文化デーがハバロフスク市で開催されました。この文化デーの一環として極東美術館で漫画展と体験学習が行なわれました。

兵庫県とは定期的に青少年、環境、スポーツ交流をしています。2018 年 8 月ハバロフスク地方は兵庫県の青少年環境代表団と青少年フットサルチームを受入れました。

2019 年 7 月と 8 月、ハバロフスク地方の同様の代表団が兵庫県の訪問します。

ハバロフスク地方は今後も日本との緊密な協力を推進していきます。今日、ハバロフスク地方にも日本にも共に発展するための膨大な、強いて言えば無尽蔵の資源あると言えます。

貿易経済分野で私たちは合同ビジネスミッション派遣、展示見本市、ビジネスマッチングや商談を継続していきます。

人的交流については、日本の県との協力協定を推進して、青少年、文化、スポーツ交流や学術、教育、保健医療、観光分野の協力など国際交流を推進していきます。

話したいことはたくさんあるのですが、とても時間が足りません。私たちの協力関係は膨大なものです。ご清聴ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。

ミローノフ・ヤロスラブリ州知事お願いします。ムルマンスクは準備してください。

ミローノフ・ヤロスラブリ州知事

どうもありがとうございます。尊敬する同僚の皆様、こんにちは。

私が指摘したいことは、プーチン大統領が何度となく演説の中で、我が国にとって日本は重要かつ信頼できるパートナーである協調していたことです。

ヤロスラブリ州は今日、3つの重要分野で日本と協力関係を持っています。イノベーション医療と製薬と機械製作です。州内に日本の建機メーカーのコマツ製作所の工場があります。この工場はコマツが世界で有する28工場の中で一番規模の大きなものです。ここでは道路建設機械、鉱山ダンプトラック、油圧ショベルが製造されています。またロシアで活動する外国企業としては珍しく、組み立ての全工程が行われています。

操業開始から10年、工場はヤロスラブリ州にとってなくてはならないものになりました。

また日本側と高度医療技術分野で緊密な連携もあります。ヤロスラブリがん病院内に最先端内視鏡センターが創設され、高度な手術が行われています。ここには日本の医療機器が設置されています。ヤロスラブリが過去19年間、ロシアや日本、欧州の専門家の主な交流の場になっています。本年6月当市で日本消化器内視鏡学会国際協力責任者である伊藤透のイニシアチブで大々的な日シンポジウムが開催されます。

州内で武田製薬グループの一員である国際企業ニcomedの製薬工場が操業しています。5年前にこれら企業がヤロスラブリ市内に共同利用センターをオープンさせました。これはユニークな教育センターであり、ヤロスラブリの製薬会社の新入社員教育を可能にしました。

このような経済的なつながりが出来たのは、日本の経済界とヤロスラブリ州の実業界、地方政府との直接的かつ効率的関係が築かれたおかげです。私達は協力関係を拡大するためのポテンシャルを持っています。その重要な部分が地域間対話です。今日のこの会議がこのことを全面的に促進してくれるものと確信しています。

ご清聴ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

ミローノフ知事大変ありがとうございました。次にチービス・ムルマンスク州知事代行にご発言願います。どうぞ。

チービス・ムルマンスク州知事代行

こんにちは！コサチョフ議員ありがとうございます。新しくなったロシア日本知事会議に出席したことは私にとって大変光栄です。私はつい最近ムルマンスク州知事代行に就任したばかりです。

私は、日本の方々と5年ほど仕事をさせていただきましたが、私達の協力関係はとても効率的でした。知事になる前に私は建設住宅サービス省副大臣として都市環境スマートシティーロシア日本合同グループの議長をしていました。この立場と一緒にプロジェクトを進めることができました。それはパイロットシティーであるヴォロネジ市やウラジオストク市でのプロジェクトであり、NTCK社が作ったマスタープランなどで、その多くが実現されています。

この場をお借りして、一緒に働いてくれた日本の同僚の皆様全員に感謝したい。そして日本のパートナーと働くことは喜びでしかないと感じていることをお伝えしたいと思います。全員が信頼できる物事に精通したプロフェッショナルばかりでした。皆様の喜んでムルマンスク州との協力にお招きしたい。

ムルマンスク州は我が国にとって重要な戦略的地域です。

ムルマンスク市は北極圏にある世界で最も大きな都市です。北極圏の首都と呼んでふさわしい町です。交通ロジスティックと北極海航路に関連したすべての分野が著しく発展しています。ここには国内唯一の不凍航路があり、「ムルマンスク交通ジョイント」と呼ばれるグローバルなインフラプロジェクトが実行されています。

私達が今皆様と一緒に仕事をしたい分野は、港湾インフラに関連する基盤整備部門です。また水産部門も非常に重要です。さらに都市環境の問題にも関心があります。当然、北方開発に従事する人々のより良い QOL や快適な暮らしを作ることが戦略的課題です。もちろん観光分野も焦点の問題です。同じように教育も重要です。

州内にロシア科学アカデミーのコラ半島学術センターがあります。ご存知でしょうか、ここには深さ 13km の世界一深い井戸（90 年代に封鎖された）があります。この科学分野のポテンシャルは双方の協力の新しい可能性です。

ムルマンスク州で皆様にお目にかかれることを楽しみにしています。大使閣下とはモスクワやムルマンスクで数多く協力し合い、このような共同ビジネスミッションについて合意しました。私達は日本のビジネスミッションをムルマンスク州に喜んでお迎えます。先程述べたように、双方の協力には高いポテンシャルがあります。このような会議と一緒に仕事をすることが、日本側パートナーの快適な環境整備に向けて、私達が最大限効率的かつ迅速にすべてを行なうことにつながると思います。どうもありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

チービス知事ありがとうございました。

これで第 1 セッションは終了します。とても内容のあるセッションだったと思います。全員が地域間協力の規模やポテンシャルを知ることができました。このことが、より

専門的かつ特別で重要なテーマに私たちと導いてくれました。

第 2 セッションのテーマは「地方における中小・零細企業の発展に対する支援と産業・インフラ投資の誘致・奨励・保護」です。

モデレータのバトンをマクシモフ・ロシア経済発展省副大臣に渡します。マクシモフさん、貴方の役割は前任者の私が上手くできなかった議事時間をキープすることにあります。宜しく願います。ありがとうございました。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

コサチョフ議員、ありがとうございました。時間内になるよう努力します。

まず最初に、ここモスクワですべての同僚の皆様を歓迎いたします。このような高いレベルと構成メンバーで行われる行事は本当に初めてだと思います。改めて連邦院とモスクワ市政府の素晴らしいオーガナイズに感謝します。

この円卓会議のテーマは 2 つです。第 1 部が地方における中小・零細企業の発展、第 2 部が産業・インフラ投資の誘致・奨励・保護です。

この 2 つのテーマは国際的な意義を持ち、日協力の重要な項目でもあります。今日すでにここで話されましたが、両国の関係は 8 項目から成る共同プランに依拠しています。その項目のひとつが合併企業による協力です。

皆さんご存知の通り、ロシア連邦にとって経済発展の優先事項のひとつが、現在進行中の国家プロジェクト「ロシア連邦における中小企業支援」です。私達の前にとても野心的な目標が定められました。2014 年までに中小企業従事者数を実質的に 600 万人増やして 2500 万人にする必要があります。

また GDP に占める中小企業の割合を、現在の 22% から 32.5% に、ほぼ 10% 引き上げます。連邦レベルでも様々な施策が実施されています。第一に資金調達のアクセスサポートです。中小企業に対する利子の助成など様々な対策が実施されています。

地域協力の発展の文脈で鍵になるのがより良い経験の交流です。資源が限られている中でどのように最大の効果を発揮するのが大切です。

第二に、輸出ポテンシャルの強化です。国家プロジェクトの効果を判断する指標のひとつとして非資源・非エネルギー輸出に占める中小企業の割合があります。

二つ目の問題については、インフラの整備やその支援および投資はグローバルな目的なので、国がやるべき役割になっています。私達の課題は投資割合を 25%まで伸ばすことです。これは民間投資や外国人投資なしに実現が不可能です。だからこそ、今日あるメカニズムが常に改良され、連邦地方各レベルで利用されています。これが決定的な要素です。

今日すでに、経済特区や先行発展区など産業インフラ施設への投資支援の幅広いツールが作られ使われています。極東連邦管区には特別なレジームが作られました。すべてこれらのツールはすでに存在し、非常に積極的に日本の企業をはじめ国際ビジネスにおいて使われています。

いくつか数字を紹介しましょう。地方にあるこれらのツールを使って日本企業が投資を表明している金額は 300 億ルーブル超になります。そのうちすでに投資された額は 100 億ルーブル以上で 1000 人以上の雇用を生みました。

議事日程の範囲内に残るために、理論から実践に移行し、実体経済が現地で、具体的な地方で、具体的な企業でどうなっているのか傾聴いたしましょう。

それでは伊原木岡山県知事にご発言願います。どうぞ。

伊原木岡山県知事

こんにちは、皆さま。伊原木隆太と申します。私は岡山県知事でございます。

私は企業対策と、海外投資の促進について、岡山県の取り組みを中心にお話したいと考えています。

岡山県は、西日本に位置し、穏やかで美しい瀬戸内海を臨む豊かな県であります。人口は 190 万人で、レニングラード州と同じぐらいです。面積は約 7,100 平方キロメートルで、モスクワ市の 3 倍ぐらいの広さです。晴れの国と呼ばれるほど、雨の降らない日が多く、年間気温が 17 度と温暖な気候に恵まれています。交通の要衝にあり、県内総生産が 7 兆 8,000 億円。約 4 兆 6,000 億ルーブルと、経済の面でも活気あふれる県であります。岡山県は、岡山後楽園や、倉敷美観地区のように歴史、伝統を感じられる場所や、岡山デニム、高級な果物などの特産品も豊富です。

それでは早速テーマにしたがい、中小企業対策についてお話ししたいと思います。日本において、企業数の 99%、雇用の約 7 割を占める中小企業は、地域経済に大きな影響力を持ち、地域の発展に大きな役割を担っております。ドイツの経済は、中小企業が牽引しているといわれておりますが、日本における中小企業の役割の大きさ、これはドイツと同様であります。中小企業は持てる経営資源が小さいことから、経済成長の阻害要因として語られることがありますが、日本においてはむしろ成長要因として捉えるべきだと思っています。

日本の中小企業はコンパクトな経営組織で、柔軟で機動性のある経営戦略を描くことができ、優れた技術力を武器に安定した経営を実現しています。マーケットの変化に柔軟に対応し、業種や業態を可能性のある分野にシフトするなど、ピンチをチャンスに変えるしたたかさたくましさを身につけた企業が、日本には存在します。

日本の経済は、こうした中小企業が林立することで、厚みと強みを増し、成長を遂げてきたと、私は言いたいと思います。こうした中小企業の潜在力を最大限に引き出すために、技術面、資金面などから、きめ細かく支援を行い、中小企業の活躍を後押ししていくことに、地方行政の使命があります。

実際、したたかでたくましい中小企業は岡山県にも数多くあり、岡山県の経済成長を支えてきました。例えば、ナカシマグループは、船舶用プロペラでは世界でトップシェアを誇りますが、その加工技術を応用して、人工関節の開

発にも乗り出し、成功を収めています。ダイヤ工業は取引先の倒産を期に、医療機器の製造の分野にシフトしましたが、自らの製造技術が生かせるコルセットの製造に活路を見出しました。

岡山県の代表的な地場産品である、デニム生地を製造するクロキは、普段着が主流だったデニムに、新しい可能性を見出し、欧米のラグジュアリーブランドとの取り引きにより、新しい販路を開拓しました。

こうした競争力のある中小企業が、発展的にビジネスを継続できるよう、岡山県では行政の立場から、中小企業の経営革新や技術開発、販路拡大に関し、資金を提供したり、情報を取得できる場を設けたりするなど、世界の潮流や、地域産業の特性を大局から見極めながら、企業のニーズを丁寧に汲み上げ、きめ細かい支援を行っています。

次に、海外投資の促進についてお話ししたいと思います。外資系企業の日本進出に伴い、常時事業者として、50万人の雇用が生み出されたり、1.4兆円の設備投資が行われたとする調査報告がありますが、こうしたことから明らかとなり、外資系企業の直接投資は、日本の地方に様々な好影響と変革をもたらしています。岡山県も、海外投資の呼び込みに力を入れています。岡山県はアクセスの良さ、安全性、コストの低さの3点で、外資系企業にとっても、非常に魅力的な投資先であるものと自負しています。アクセスについて、岡山県は西日本の要衝で、新幹線で東京から3時間、大阪から1時間の距離となっています。また高速道路も非常によく整備をされています。

最近では、こうした岡山県の利便性が評価され、大型物流施設の立地が進んでいます。写真は世界企業のAmazonの日本法人の物流センターが入居した施設であります。

安全性については、岡山県は活断層がほとんどなく、過去90年間で震度6以上の地震は1回も発生しておりません。震度4以上の地震の発生頻度は東京の30分の1になっています。コストについては、東京と比較して、岡山県は地価が低く、オフィス賃料も同様に安価で、ランニングコストを低く抑えることができます。東京、大阪などと比べ、岡山の知名度、決して高くありませんが、皆さまが日本への投資をお考えの際は、東京に投資すると決めつけず、岡山県への投資も選択肢の1つに加えていただければと思います。

岡山県では、こうした魅力をお伝えし、外資系企業に進出いただけるよう、売り込みを強めているところですが、一方で県内企業の海外への事業展開にも現地の経済や法律などの情報を提供したり、商談先を紹介するなど、支援策を講じています。県内にはロシアに投資する企業も現れており、例えば、滝澤鉄工所はロシア企業、コプロフエレクトロメカニカルプラントと提携し、2014年に工作機械の生産をウラジミール州で開始しています。ロシア進出企業の7割以上が黒字を見込んでおり、5割以上が今後1～2年で事業を拡大したいと考えているとの報告もあり、海外事業展開先として、ロシアは有望であると考えています。

海外取引の面に目を転じると、ロシアの輸出総額、輸入総額に占める日本のシェアは、それぞれ3%程度にとどまっています。また、日本から見ても、ロシアのシェアは、それぞれ2%以下にとどまっています。言い方を変えれば、日本とロシアの双方に大きなビジネスチャンスが残っていると考えています。両国のそれぞれの地方が手を携え、海外進出、海外取引をサポートすることが、それぞれの発展に寄与するものと確信をいたしております。

最後になりましたが、私自身、中小企業の経営をしていた人間であります。ビジネスマンとして相互交流、非常に大事だ、このように考えておりますので、今後とも、地方レベルの経済交流、ぜひ活発にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。スパシーバ。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

伊原木知事、ありがとうございました。

ニジニー・ノヴゴロド州は差別化経済の地方です。本日のテーマの2つの問題について両方とも積極的に取り組んでいます。ニキーチン・ニジニー・ノヴゴロド州知事に日本のパートナーとの連携の現状について、今後の関係拡大の可能性について話してもらいます。

ニキーチン知事をお願いします。

ニキーチン・ニジニー・ノヴゴロド州知事

尊敬するモデレータの皆様、どうもありがとうございます。

コサチョフ議員、第一セッションのモデレータをありがとうございました。

マクシモフ副大臣、伊原木知事、尊敬する同僚、紳士淑女の皆様！

まずはじめに、コサチョフ議員をはじめ連邦院とその委員会、モスクワ市政府に本日の会議のご準備に感謝いたします。

またハイレベルの代表団を編成することで、私達の地域間協力に高い関心を示していただいた日本のパートナーの皆様にも感謝いたします。

パートナーという言葉が偶然使っているわけではありません。すでに発言した私の同僚たちと同じようにこの意味を理解して使っています。

私は産業貿易省第一副大臣の時に、対日協力を担当して、二国間産業委員会の委員長をしていました。だからこそ同僚の言葉に同意します。日本人と仕事をするのはとても楽しいし、国レベルの相互関係における信頼レベルはこれまで以上に高くなっています。

ニジニー・ノヴゴロド州については、日本との積極的な連携が始まったのがミレニアムの頃でした。昨年、州内で「ロシアの日本年」と「日本のロシア年」の枠内で国際展覧会、学術会議、フォーラム、セミナー、レクチャーなど日本側の参加を得た60以上のイベントが行なわれました。

具体的な数字としては、2018年ニジニー・ノヴゴロド州と日本の貿易高は860万ドルでした。ハバロフスク地方知事が言った数字に較べれば、それほど印象的な数字ではないかもしれませんが、その動態はとても高いレベルでした。

2018年は前年比55%の伸び、1月2月だけで23%でした。とても良いテンポで進んでいます。資本集約型の協力形態については、州内で日本の資本の参加を得て、投資プロジェクト6件、総額125億ルーブルの案件が順調に進んでいます。

スライドに具体的な企業名がありますが、2000名以上の雇用が生まれました。もうすでに私達は共に手を携え、とても長い道を歩きました。これによって日本のパートナーとの関係の大きな将来が信じられるようになっています。

でも私の話の主題はこれではなく、地方における中小企業への支援と地方レベルの投資政策にあります。

ニジニー・ノヴゴロド州には10万以上の中小企業があり、50万人弱の雇用を有しています。小企業と零細企業の労働力は州内の21%です。

当州は中小企業の数と雇用者数で国内上位に位置しています。国の課題として経済における小規模事業所の割合を増やすことが求められています。そのため州として中小企業に対する財政・資産支援を総合的に実施しています。主な支援策は融資保証支援です。2018年連邦と地方予算から総額6500万ルーブルのマイクロファイナンスが支出され、資本増強を行いました。

企業活動支援基盤施設として、ビジネスインキュベータ10か所、ビジネス多機能センター、ロシア国内のある銀行が設置したサービス提供センターがあります。

中小企業は主に都市部に集中しており、その成功は都市環境に多く依存しています。そのためニジニー・ノヴゴロド州政府は歴史的地区の再開発を通じて都市経済のリセットを図るプロジェクトを立ち上げました。この分野で別なロシアの都市が持つ日本の皆様との協力の経験を活用したいと考えています。今後このような協力を活性化していきたいと考えています。

このようなプロジェクトのおかげで、商業、観光、クリエイティブ部門などサービス産業全体の企業投資活動の成長ポテンシャルが40-60%になりました。

このようなプロジェクトの財務経済モデリングについては、私達は関心を持つすべての団体と仕事をします。モデリングをするのは政府機関でも民間団体でもオーケーです。日本の投資家やディベロッパーに是非参加していただきたい。これは皆様の知識や経験および資本を活用する素晴らしいチャンスです。

改めて申し上げたいことは、これが州にとっての現実的な戦略プロジェクトであることです。ですから私たちはそれぞれのオファーやコメントに最大限の注意を払っています。再開発モデルだけでなく、再開発地が社会経済効果を最大限発揮できるような運営管理も重視しています。

中小企業発展の別な方向性がイノベーション分野です。ニジニー・ノヴゴロド州はイノベーション発展レベルで国内トップ10に入っています。先端技術利用件数では国内3位です。州内に2つのテクノパークがあり、順調に活動しています。まさに数日前の出来事ですが、わが州は世界レベルの科学教育センター誘致のための優先5地域に選ばれました。ここでも、世界レベルの先端的科学教育センターである日本との協力を含め、国際協力の大きな可能性があると見ています。

これは発案から商業化まですべての開発段階でイノベーションプロジェクトやハイテクスタートアッププロジェクトを支援する素晴らしい環境を州内に作るものです。投資を呼び込むための重要な条件とは、投資の安全性と投資環境の安定性などの支援策であることは明らかです。

2018年にニジニー・ノヴゴロド州開発公社が設立されました。その主な機能はワンストップサービスによる投資の呼び込みおよび投資プロジェクト進行中における投資家サポートです。

企業活動支援の新しい方法として州内に最近創設された「企業活動特惠条件地域」があります。これは先行社会経済発展区ですが、日本の企業家の皆さんは極東地域でお馴染みだと思います。まさにこれがニジニー・ノヴゴロド州にも設置されることが数か月前にロシア連邦政府レベルで決定されました。

もう一つとても重要なポイントがあります。中小企業などによって実施される投資プロジェクトは総合評価入札を経てプライオリティステータスを取得することができます。このステータスがあると投資家は利潤税や資産税の特惠、地代の優遇、融資利子の一部助成など財政支援を得ることができます。

尊敬する同僚の皆様、ニジニー・ノヴゴロド州は沿ボルガ連邦管区において直接外国投資誘致指数で上位に位置しています。その理由は大企業にとって魅力的なロジスティック環境があり、土地選択の可能性や経験ある人材が豊富で、人材育成の効率的システムがあることです。

私達が連携に関心のある分野は、ハイテクノロジー、科学教育、工業、機械製作、医療ソーシャル技術の普及や保健医療のイノベーションシステム形成です。

もうひとつここで強調したい重要なポイントが、この会議で取り上げられ、近年大統領がよく話している国家的優先事項のひとつ―労働生産性の向上です。当州がパイロット地区になり、私は国家評議会ワーキンググループ労働生産性分科会の会長をしています。以前の仕事で安倍プーチン8項目の調整を担当していましたので、日本側から提案を受けた労働生産性向上を共同で行うことが、最も効果的かつ有益な協力項目のひとつだったことを良く覚えています。

日本は労働生産性向上のあらゆる形態やシステムにおいてリーダー的な立場であり、是非、当州だけでなくロシア全体で協力を活性化させるよう提案したいと思います。

私たちはニジニー・ノヴゴロド州に国立労働生産性研究所を創設する提案を行い、現在この問題は労働生産性プロジェクト委員会で活発に議論されています。

もしこの研究所を創設して、ここをベースに日本との協力ができれば、世界レベルの教育機関のようなものを作る条件が生まれてきます。

尊敬する同僚の皆様、最後に付け加えて申し上げたい。私たちは変化の時代に生きています。この時代の重要なファクターは柔軟性、コミュニケーション能力、知識レベルです。当州は新しい時代を受け入れ、新しいビジネスコンタクトを持ち、変革する用意があります。

ご清聴ありがとうございました。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

ニキーチン知事、ご発言ありがとうございました。またロシアと日本の地域間協力について具体的な提案を出していただいたことにも感謝します。

茨城県は日本の農業先端地のひとつであると共に、日立製作所や鹿島など日本経済の巨人が活動しているところで、様々な産業が発達しています。ここで大井川茨城県知事に発言をお願いします。どうぞ。

大井川茨城県知事

茨城県の紹介をしながら、最終的に中小企業の話にも、触れていきたいと思います。

私が茨城県知事になったのは2年前ですが、その2年前に私が就任するまで、マイクロソフトやシスコシステムズといった、民間企業の仕事もしておりました。2年前から茨城県の運営は、地方自治体の経営に、民間企業のスピード感、それから選択と集中、そういうものを取り入れていくという考え方で進めております。

茨城県の先ほどご紹介いただいたように、農業って話がございましたけれども、農業だけではなく、バランス良く全ての産業があるのが、その特徴です。このスライドをご覧くださいと、東京に近いんですけど、非常にアクセスがいいということで、次のページめくっていただくと、茨城県は自動車やロボットなどのような製造業が大変盛んです。日立製作所が、そもそも発祥の地だということでございます。新たに、JAXAという国立の研究機関もあるので、宇宙ビジネスについても、新しく新たな取り組みを進めておりますし、もちろん日本の最大の農業地の1つであります。

次に茨城県の強みをご紹介しますけれども、1つ目、本当にロボット、宇宙ビジネスなどの最先端科学技術の集積が、これ、茨城にございます。つくばという町は、研究学園都市といまして、国立の研究機関、29の研究機関が集まっておりまして、2万人を超える研究者が働いておいて、7,000人を超えるPh.Dホルダーが、そこで研究をしているというところでございます。6月にはつくばで、G20の貿易・デジタル経済大臣会合も開催されますし、研究機関と包括的な提携をしながら、ファナックや様々な最先端の企業が、このつくばに集まっています。その次のページですけれども、このつくばの外でも、日野自動車であるとか、あるいは日立建機というような製造業が、大変多く立地をしております。

特に最近では、自動運転の技術の研究施設が、この茨城に対する進出っていうのが、非常に増えておりまして、今後の自動車の自動運転の研究の中心地になるんじゃないかと期待しているところであります。

ロシアとの連携ということを考えてみますと、まず茨城県の企業の海外進出、これは今まで、あまりなかなか取り組まれてこなかったものを、この茨城グローバルビジネス推進協議会というものを、県で作りました。これによって、海外に進出したいという企業に対して、県が支援をしながら、ジェトロや金融機関と連携して、運営していくと、そういう仕組みが出来上がりましたので、ぜひ茨城県の企業の進出をぜひ期待したいというところございましたら、茨城県に相談いただければと思います。

次のページ、ご覧いただくと、その他につくばの研究機関を使った、最先端科学技術を利用した技術革新の活用ということが考えられると思います。例えば、農業では、農業食品産業技術総合研究機構というところがあるんですけども、そこが、AIを活用した新しい農業の実証プロジェクトなども進めています。こういう分野でも、今後、ロシアとの連携の可能性があるんじゃないかと思います。更に先端技術の産業利用ということでは、産業技術総合研究所という研究機関、ここが技術シーズとビジネスとのマッチングを行うというような、テクノブリッジというものを県内で開催しています。この辺なんかも、1つはヒントになるかと思います。

次のページが宇宙産業ですね。宇宙産業、今後、大きく成長が期待される。特に民間の宇宙利用ということで、JAXAのある、この茨城でも宇宙ベンチャーの育成に力を入れていきたいというふうに思っています。

次のページ行くと、更に茨城県の投資の受け入れに対して、ワンストップのサービス、あるいは様々な補助金などによる優遇制度も用意しています。そういうことで、ロシアからの企業進出、あるいは茨城県内の企業のロシアに対する進出のサポートということを、整備してまいりました。

その次のページですね。その他にも、農業県でありますので、食品加工産業なんかも、非常に強いものがございます。先日は食の交流ということで、ロシアに、次のページで、干し芋という、さつまいも、スイートポテトを使った製品をモスクワでイベントで販売しております。ザキトワ選手がたまたま来ていただきまして、プレゼントしたところ、大変喜んでいただけたという話を聞いております。

以上、簡単に茨城県の説明なんですけれども、中小企業の振興ということでは、つくばという、研究施設を利用したベンチャー企業の育成、特に海外のアクセラレーター、ベンチャー企業を育成する専門家っていうのが、今、アクセラレーターっていうことで、非常に世界でも注目されていますが、そういうアクセラレーターと、茨城のベンチャー企業を結ぶような仕組みを作ろうとしています。東京、大阪、更にはニューヨーク。そういうことで、つくばにいながらにして、そういうところのアクセラレーターと連携できるような仕組みを、今作ろうとしています。その他、中小企業については、日立製作所の系列の子会社、更にビジネスを拡大するために、海外進出、新たな市場を開拓するというニーズが非常に強いために、その辺についても、積極的に考えていかなきゃなんない。その辺は、ロシアとの連携の可能性が非常に高いのではないかとこのように思っています。

その他の、実は零細企業は、事業承継ということで、黒字でビジネスとしてはある程度もうかっているんですけども、跡取りがない、後継者がいない、そういう企業が結構増えてきているというのが、実はわれわれとしても非常に悩みの種です。われわれは、事業承継の事業を引き続き継続してもらうために、M&Aということも視野に入れて活用していきたいというふうに思います。技術の確かな企業が、今後、茨城県から売りに出されるという可能性もございますので、もし興味があるということであれば、ぜひマッチングなんかも参加いただければと思います。以上です。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

大井川様ありがとうございました。

ヴォロネジ州については今日この場で何度か触れられていましたが、この州は日本側との実質的な協力で具体的な成果を挙げています。ここでゲーセフ知事から何が成され、どんな将来計画を持っているのか話していただきます。ゲーセフ知事よろしくお願いします。

ゲーセフ・ヴォロネジ州知事

ありがとうございます。こんにちは、尊敬する同僚の皆様！

今日話している中小企業支援はとても大切なことだと思います。大企業は得てして自分で問題を解決できますが、小規模事業所には地方政府の配慮が絶対に必要です。私達ヴォロネジ州ではこれがしっかりできています。いく

つか数字を紹介しましょう。州内の中小企業は約 9 万社、その雇用は 30 万人を超えています。これはヴォロネジ州の労働人口の約 30%です。

州内にはロシアに存在するあらゆる中小企業支援メニューがあります。現在新しいことを始めています。複数の中小企業の生産ラインを取付けられるような 15000-20000 平米の大きな工場用建屋を産業団地に建設しています。ちなみにこの産業団地には日本企業古川電機が操業しています。

すでにいくつかパイロットプロジェクトが終わり、今ではそのプロジェクトの規模拡大を行っています。日建設計と一緒に道路交通改良をはじめ快適な都市環境とスマートシティーに取り組んでいます。すでに良い結果が出ています。今後、対象面積を 2 倍にする予定です。

日建設計と共にスマートヘルスハウスの日本の建設技術を使った大きな町を作っています。

当然ながら私たちにとってとても重要なのが、ライトレール軌道を含む市内の交通システムの発展です。そのような仕事を日建設計と共に実施しており、すでにフィージビリティスタディの段階にあります。

テクノパーク創設などの中小企業支援はとても効果的であると思っています。すでにテクノパークは存在しており、現在 2 つの大きなプロジェクトを進めているところです。

そのひとつがテクノポリス「ソルネチヌイ」でライフサイエンス分野を専門としています。

二つ目のテクノパーク「ビデオフォン」です。昔の無線電子工場を基盤にしたテクノパークで、専門は無線電子・電気技術です。

ヴォロネジ州は農業州です。将来的には農作物の生産だけでなく、加工も行っています。ここで生産している作物を加工して各地に販売することに関心のあるパートナーを含め皆様には是非参入していただきたいと思っています。

もし宜しければ、私達の連携を改善する可能性のある 2 つ提案をさせていただきたい。日知事会議と日本全国知事会の実動機関の力を借りて、ロシア各地方が保有する将来性のある分野や部門に関する情報を日本各地に提供することが可能であると考えています。

中身は現在ある公的機関の支援策や支援組織の関するすべての情報です。知事会議と知事会の実動機関が情報を集約して、各地方政府に届け、その後中小企業にも届けることです。

第 2 の提案は、日本はとても効率的なテクノパーク創設・活動支援システムが出来上がっています。私もすでに触れましたが、こちらでもテクノパークが発展しています。よって日本からテクノパーク管理会社を招致して、経験を伝えてもらうだけでなく、日本企業のロシア市場への参入のお手伝いをしてもらうことを考えています。ありがとうございました。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

グーセフ知事、ありがとうございました。

とても的確で面白い提案でした。検討いたします。私のコメントは最後に行います。

カルーガ州についてですが、日本側の皆様のために少しお話しします。

カルーガ州は外国投資と産業物流センター誘致実績において国内のリーダー的の地方のひとつです。投資家とピンポイントかつとても具体的な作業を行い、州経済全体に立派な社会経済的効果を与え、大きな成果を達成しました。

アルタモノフ知事に今後の見通しや日知事協力の文脈の中でどのような地域発展モデルの限界を考えているのか聞いてみましょう。どうぞ。

アルタモノフ・カルーガ州知事

素晴らしいご紹介ありがとうございました。

尊敬する日本とロシアの同僚の皆様、カルーガ州は、日本の各地方と貿易経済や文化人的協力を拡大する中で、今日、日本とロシアが築いた積極的な政治連携の更なる強化のために最大限努力しています。

日本の経済界との関係は常に前向きなものでした。国際的フォーラムの席で頻繁にミーティングを行い、日本や諸外国の企業がロシアで働きやすい環境の整備の可能性について協議を行っています。カルーガ州には様々な産業の集積があり、農業もあります。また大きな科学ポテンシャルと有能な人的資源を有しています。

進出企業に少しでも楽をしてもらうために、州政府は投資家のカルーガ州進出の最初のステップから操業開始およびその後の活動に至るまで、あらゆる問題の解決に関与しています。投資家に対する税の優遇もあります。プロジェクト推進のための特別な制度も作られています。新しい企業のための人材育成のために特別なトレーニングセンターを設立しました。すでに約 2 万人の人材をこれらの企業のために育成しました。

このようなアプローチの結果、比較的短い期間でカルーガ州に国内でも最大級の自動車クラスターが出来上がりました。このクラスターに三菱自動車も入っています。27 の企業が部品を供給して自動車が組み立てられています。

オブニンスク市で原子力エネルギー分野の国際プロジェクトが進められています。新素材が開発され、近代的な医療技術が作られています。オブニンスクの科学者が福島原発事故の復旧国際共同プログラムに積極的に参加しています。

州政府は築き上げられた自己の名声を大切にしています。それは信頼できるビジネスパートナーで、約束した義務を完全に果たすパートナーという名声です。

州内で作られた国際協力発展のための環境がそのまま貿易統計に表れています。昨年は対日輸出入額が 2 倍になり、3.5 億米ドルになりました。

これは大きな進歩ですが、まだ私たちが持つ高い連携のポテンシャルを完全に反映したものになっていません。だから私たちは日ロ経済交流をより高いレベルに引き上げるための前提条件を作るための努力を継続しています。協力拡大において、成功裏の連携が可能なのが農業です。ここでも高級牛肉の生産についてすでに話されましたが、カルーガ州ではロシア動物飼料科学研究所がとても素晴らしい活動をしています。

州内の 51% が森林です。林産業や木材加工の協力に向けた共同行動を期待しています。

都市環境整備については、ヴォロネジ州の例のように、私たちも土木施設の建設やごみ処理など、あらゆる可能性をすべて提供する用意があります。日本の皆様はとても素晴らしい経験を持っています。

機械製作や製薬、コンピュータ技術、通信分野で大きな投資需要があります。

いま求められている協力分野は物流部門です。Freight Village ヴォルシノにある交通物流総合施設がロシア欧露部と東南アジアを結ぶ新シルクロード国際プロジェクトに参画しています。

日本の神戸港から Freight Village ヴォルシノのコンテナターミナルまで第 1 回目のテスト貨物が輸送されました。海上輸送と比較して 3 分の 1 の時間でした。ヴォルシノのターミナルが日本製品の物流基地に選ばれたのは私たちにとって重要なことです。この方向性を積極的に発展させたいと思っています。

中小企業同士のマッチングをお手伝いしたいと考えています。また経済団体や商工会議所同士の連携を築いていきたい。

両国間協力の拡大のために重要なのが人々の直接的な交流です。文化や青少年交流、大学間協力、日本人観光客の受入れを推進していきます。ロシアと日本の地域間の直接交流の推進を重要視しています。

昨年は福田富一栃木県知事を団長とする代表団を受入れました。本日は古田肇岐阜県知事と話し合いを持ちましたが、農業や宇宙分野での協力の可能性など多くの共通点が見つかりました。両地域共に宇宙関連の博物館があるのは偶然ではありません。

カルーガ州には両国民の相互理解、信頼、友好関係の強化に寄与する共同プロジェクトを推進するための強固な基盤があります。私は両国関係の拡大を楽観的に見ています。そして全面的にバックアップしていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。日本の皆様には、是非ご自分でカルーガ州に来ていただきたいと思います。ありがとうございました。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

アナトーリー・アルタモノフ知事、ありがとうございました。

リベツク州は日本との協力について、既存インフラの近代化や新規工場建設など素晴らしい経験を持っています。イーゴリ・アルタモノフ・リベツク知事代行に発言をお願いします。日協力発展に向けた今後の取り組みについて、知事がどのような見方をしているのかお話しください。

イーゴリ・アルタモノフ・リベツク州知事代行

こんにちは、尊敬する友人の皆様！

リベツクについて少しお話しします。このプレゼンで、日本や日本の都道府県とのつながりについて、どんな共通点があって、どんな相違があるのかお話ししたいと思います。

ではリベツク州について一言。

リベツク州は欧露部の真ん中にあります。すなわち物流において優位です。この道を見てください。上海—ハンブルグのシルクロードが我が州を通過しています。

2000 社。人口 120 万人。GDP190 億です。

リベツク州はロシア国内の温室栽培野菜果実と子供用ジュースの 74%、農業生産の 24%を担っています。機械製作もあります。砂糖生産は国内 2 位。当州の特徴は 2 つの経済特区です。その内一つは多くの表彰を受け、様々な指数において、国内で最も効率的で素晴らしい特区の一つと何度も認められています。

それ以外に地方レベルの経済特区が 10 か所あり、非常に多くの外国企業が活動しています。

素晴らしい自然が日本とリベツク州をつないでいます。自然保護区ガリチャ・ゴラーがあります。ここに日本語で「投資による発展」と書いてあります。

皆さんご存知のように、日本のシンボルは桜です。リベツク州はリンゴです。リベツク州は国内 33%のリンゴとネクターを生産しています。

私達全員が素晴らしい日本の刀剣について知っています。私達全員がサムライの伝説をしっています。リベツクでロシアの鉄の 23%が生産されていることは有名です。

日本人の魚好きは良く知られています。リベツク州民は野菜が大好きです。

和牛に近い牛もいます。リベツク州に子牛を導入して和牛生産をしたいと考えています。地元の牛も霜が入るのですが、日本の和牛に比べると完全な霜降りではありません。この分野の協力も期待しています。

毎年 650 万トンの砂糖を生産しています。そのリベツク州の砂糖の 10 年分が、日本のシンボル富士山と同じ量です。

日本のロボット技術や AI はとても有名です。リベック州は国内 30%の白物家電を生産しています。日本の技術がリベック州に進出していくことを心から願っています。

ここには様々な特典があります。16 か国の 65 社が入居しており、投資額 30 億、従業員 4500 名、インフラが整備されています。

右が、保税地区です。地税はありません。保税区と空港保税工場があります。JTI やヨコハマ、クボタなど多くの日本企業が進出しています。

日本からの投資額は 5 億 3000 万ドル、雇用 1000 人。日本の皆様にはリベック州をとて気に入ってもらっています。今後の協力の発展を期待しています。

これがリベック州の大手企業群です。100 以上の成功例があります。

リベックフォーミュラ 3 はヨコハマタイヤがずっとスポンサーになっており、いつも助けられています。

文化交流として日本映画祭や様々な写真展、絵画展などが行われています。

日本は令和の時代ですが、ビューティフル・ハーモニーはリベック州に近いものがあります。

毎年冬に銃を使わず犬だけで行うきつね狩りの祭りが行われていますので、是非皆様ご参加ください。とても魅力的な祭りです。

Arigato、ご清聴ありがとうございました。

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

アルタモノフ知事、ありがとうございました。

これで、第二セッションで予定されていた発言がすべて終わりました。貴重なご経験をお話いただき、ありがとうございました。すべての参加地方が発言できたわけではありませんが、まだ別なミーティングもあります。どちらにしても双方の連携をさらに前進させていきたいと思えます。

最後に私から少しお話をさせていただきます。私達の経済発展省は、大臣が対日貿易経済連携発展大統領特別代表に任命されています。本日ここで聞いたことを踏まえて、皆様と共に進んでいきたいと思えます。両国は大きなポテンシャルを持っています、課題もたくさんあります。皆様と一緒に、これらすべてをうまく前進させることができるでしょう。そして今日話したことや今後話すことについて、近い将来、具体的に実現していけるものと確信しています。

皆様どうもありがとうございました。コサチョフ議員、議事はほぼ予定通りに戻りました。

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。尊敬する同僚の皆様、私たちは「赤道」を超えました。そんな風に表現したい。しかし実際にこれを通すにはまだ 1 時間かかります。今から昼食休憩です。昼食にはいくつかオプションがあるので、主催者からゲストやその他参加者にその手順について連絡が届いていると思えます。

主催者が準備した次第に従って、可能な限り、予定時間 14 : 30 に再度ここに集まっていただきたい。45 分で食事ができるでしょう。おいしく召し上がってきてください。ありがとうございました。

オシマコフ・ロシア連邦産業貿易副大臣

尊敬する同僚の皆様、こんにちは。始めましょう。遅れている方も後から来られます。

ご挨拶申し上げます。私はヴァシリー・オシマコフと申します。ロシア連邦産業貿易副大臣をしております。省内で日産業協力関係を担当しています。

そのほかには国家プロジェクト「エクスポート」の調整推進を行っております。ロシア経済が輸出志向に転換する中で、我々にとって今回の会議や対話は極めて重要なものです。

このセッションは「ロシアの連邦構成主体と日本の都道府県による技術革新への支援」と名付けられています。ここでは両国からたくさんの方の提案がなされるでしょう。現に私も、工作機械、製薬、化学産業分野等で直接一連のプロジェクトの実現に関わってきました。

しかし明確であるのは、両国間の貿易高がすでに3年連続で成長し、2018年には17%の伸びにも関わらず、そのポテンシャルはまだ十分に使い切れていないということです。また両国の地域間レベルの連携のポテンシャルも十分に使い切れていないのです。これははっきりと申し上げることができます。

今日は、日双方から、注目に値する大変素晴らしい地域の発表があります。これ以上時間はとりません。最初の発言をモスクワ州政府プロモフ副首相にお願いします。

モスクワ州は、ロシア連邦の最重要イノベーション地域のひとつです。モスクワ州では約9件のプロジェクトが日本の資本参加により進められています。モスクワ州は科学都市の密集地域です。私もモスクワ州コロヨフ市民として本当にその通りだと思います。

ではご発言を手短にお願いします。

モスクワ州政府プロモフ副首相

尊敬する同僚のみなさん、こんにちは。

このような立派な会議でお話できることを大変嬉しく思います。

モスクワ州とはどんなところか？ここはみなさんが10時間のフライトの末に到着した場所です。ほとんどの方が東京から来られたと思います。モスクワ州はモスクワ市を取り囲んでおり、それぞれ別々の連邦構成主体となっています。人口は750万人、市場規模は約3千万人です。小売売上高は国内二位で、極めてアクティブに発展しています。では科学ポテンシャルについて話します。

モスクワ州は科学技術振興のリーダー的地域のひとつです。ロシア連邦の13科学都市のうち8都市がモスクワ州にあります。

研究者数は国内三位で、科学技術研究全体の20%がモスクワ州内で行われています。モスクワ州は連邦プログラムに沿ってそれぞれの科学都市のサイエンス企業を応援するばかりでなく、科学的知見の商業化のために技術普及センターや工業団地、テクノパークを設置しています。

モスクワ州の中心的な科学都市のひとつが、合同原子核研究所があるドブナ市です。この巨大な科学センターは、原子核研究、メンデレーフ周期表における新元素の特性の研究を目的に20か国以上の国によって創設されました。合同原子核研究所とその前身の研究所の直接的参加により原子番号102番から118番の元素が合成されました。105番目の元素はドブナにちなんで「ドブニウム」と、115番目の元素はモスクワ州にちなんで「モスコビウム」と名付けられました。同研究所は世界各地の800以上の研究機関、62か国と協力関係を持っています。パートナー団体のひとつが東京の理化学研究所です。その他ドブナと研究課題は新素材、医療機器、素材製品、情報通信技術分野です。

ドブナには最新鋭の機器が導入されており、ロシアの技術普及特区になっています。現在、13 か国 154 社が入居して活動しています。敷地面積は 218 ヘクタールです。その中には医療用製品、血糖値測定器、糖尿試験紙などを製造するアークレイのような日本企業や、ドイツ、インド、その他欧州の企業もあります。

バイオメディカルテクノロジー分野の研究を目的に、現在科学都市プーシノではロシア科学アカデミーの 4 つの科学研究センターをベースにバイオ薬学クラスターが創設中です。今年中にモスクワ州は製薬とバイオテクノロジー企業進出のため 63 ヘクタールの用地整備を完了します。それにより、投資家は誰でも無償でインフラが整った土地を取得することができます。

モスクワ州と日本のパートナーの連携の良い例は、モスクワ州立臨床研究センター「MONIKI」と日本のメディカルツーリズム・ジャパン社（札幌禎心会病院）とのがん予防研究分野の協カプロジェクトです。

両者はすでにデータ交換に向けて準備を整え、「セカンドオピニオン」プログラムに沿って、がん研究データの交換を行っています。

また 2017 年には日本のシスメックス株式会社がモスクワ州内に医療機器用分析器試薬混合剤生産施設を開設しました。

さらにモスクワ州は航空宇宙産業振興の中心地のひとつです。4 万人以上が宇宙関連の企業で働いています。科学都市のコロリョフ、レウトフ、ジュコーフスキーはこの分野の中心的存在として認められています。

ジュコーフスキーには中央航空流体力学研究所（TsAGI）があり、すでに日本の宇宙航空研究開発機構と協力関係を有しており、各種航空機の航空力学の科学的計算を行っています。

現在、次の内容の研究が行われています。

- 民生用超音速ジェット機
- 超音速機の透視複合構造の開発
- 革新的電動エンジン飛行機の開発

本日まで出席の皆様を、今年も開催される恒例のジュコーフスキー航空宇宙サロンにお招きしたい。8 月末に開催されます、是非モスクワ州にお越しいただき、最新の航空技術の発展を見ていただきたい。

モスクワ州には最先端の自動車研究テストコースのひとつがあります。これは中央自動車・自動車エンジン科学研究所のテストコースです。北海道の皆様には北海道の自動車テストコースとモスクワ州のテストコースとの連携を呼び掛けています。2019 年 4 月初めにソルネチノゴルスクの産業団地に「メルセデス」パークがオープンしました。トヨタはモスクワ州にロシアトヨタの本社を持っています。本年 5 月から日野自動車がモスクワ州内で小型トラック工場の建設を始めました。

日本の企業やメーカー、部品供給メーカーの皆様にもモスクワ州やロシア連邦と積極的に協力していただくようお願いいたします。

日本の同僚の皆様とごみ処理用設備製造に関する問題について協議を続けています。例えば、本年 3 月鳥取県とごみ処理分野のプロジェクトについて協議しました。

このスライドにはモスクワ州に進出した日本企業の配置が描かれています。リストはすでに古くなっています。ハイテク分野のこのような協力は極めて重要です。私たちはこれら企業のこの地域でのプロジェクト推進を支援しています。

日本企業がモスクワ州で自宅にいるようにリラックスできるように、大使館と定期的に会合を持っています。上月大使ありがとうございます。貴殿の支援に感謝しています。

最後に日本語で話します。Arigato gozaimasu!

マクシモフ・ロシア経済発展省副大臣

フロモフ副首相ありがとうございました。

とても素晴らしくコンパクトなモスクワ州とそのイノベーションポテンシャルに関するプレゼンテーションでした。

ここで日本側岐阜県に発言をお願いします。岐阜県は機械製作、林産業、非鉄金属が有名です。ここには航空宇宙技術、医療機器、製薬など主要な生産施設があります。2つの産業クラスターがあり、私たちのイノベーション分野の協力において非常に興味惹かれる県です。この県のトップ、古田知事にご発言願います。

古田岐阜県知事

岐阜県知事の古田でございます。今回、初めて、この日ロ知事会議に参加させていただいております。大変光栄に存じておるところでございます。まずもって、マトヴィエンコロシア連邦院議長、ソビヤーニンモスクワ市長、ロシア連邦構成主体首長をはじめ、ロシア側の皆さま方の温かいおもてなしに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

最初に、簡単に岐阜県についてご紹介をさせていただきます。どうぞご覧ください。岐阜県は日本の真ん中にありまして、清流の国という川の国でございます。人口約200万人、面積約1万平方キロメートルということで、東京から2時間、大阪から1時間、中部国際空港から1時間、そういう距離の場所にございます。リニア中央新幹線が東京－名古屋間にやがて開通いたしますが、そうしますと、東京－岐阜間は1時間ということになります。

岐阜県は世界に誇る、様々な文化遺産に恵まれております。そしてまた、伝統技術、あるいは伝統文化、いろいろな意味で世界にアピールできる地域でございます。また来年は東京オリンピック、パラリンピックがございまして、ロシアのカヌーチームが、本県での合宿練習に大変関心を持っていただいております。先月、カヌー協会の事務総長がおいになっておられます。大いに清流の国として歓迎したいというふうに思っております。

そこで、私に与えられた課題、イノベーションということで、大変大きなテーマではございますが、本日はその一例として、私自身がかつて日本国政府の一員として参加をしました宇宙開発の分野につきまして、日本とロシアの関係をご紹介申し上げます。そして、特に岐阜県が、地元各務原市と共同運営しております、航空宇宙博物館と、ロシアの幾つかの宇宙博物館との新しい連携プランについて、ご説明を申し上げます。これに先立ちまして、私からも、先ごろのシレメチェボ空港での事故につきまして、心からお見舞いを申し上げる次第でございます。

さて、ご案内のとおり、ロシアは宇宙開発においては、様々な人類初という偉業を成し遂げていただいております。ガガーリンの人類初の宇宙に飛び立った事例もございまして、また、そもそも飛行機が誕生する前から、宇宙へ旅をするロケットを研究し、宇宙旅行の父とも呼ばれる、ツィオルコフスキー氏を輩出した国でもございます。また、人工衛星も人類初、宇宙遊泳も人類初、女性宇宙飛行士も人類初と、全てこのロシアの偉業でございます。

これまでわが国は、宇宙先進国たるロシアにも学びながら、宇宙開発を進めてまいりました。例えば、今年2月に日本の探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウに着陸いたしました。そしてサンプルの入手に成功したことが、世界的なニュースになっております。

この先駆けとなりましたのは、旧ソ連のルナ計画での無人月探査ということでございます。現在、この映像にもありますように、日本やロシアを含む、世界15カ国の協力の下で、国際宇宙ステーション（ISS）が運営されております。そういう中で、ロシアと様々な協力が進んでおります。日本の4人の宇宙飛行士がロシアで訓練を受け、ロシアのソユーズロケットで宇宙に運ばれ、国際宇宙ステーション内において、共同ミッションを実施するということが進んでおるわけでございます。私は、この会議に合わせて、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の松井館長と共に「モスクワ市立宇宙飛行士記念博物館」、それからサンクトペテルブルクの「国立宇宙とロケットの博物館」を訪問し、博物館連携について協議を行いたいというふうを考えております。また、できるだけ近い将来、カルーガ州の「国立ツィオルコフスキー記念航空宇宙歴史博物館」もお訪ねしたいというふう考えておるところでございます。

なお、松井館長は日本国政府の宇宙政策委員会の委員長代理ということで、わが国の宇宙開発のリーダーでございます。

さて、岐阜県各務原市は 100 年前に開設されました、現存する日本最古の飛行場がございまして、開設以来、わが国の航空機の飛行実験の場として、また航空機産業のメッカとして、重要な拠点であり続けたところでございます。

現在、本県をはじめ、隣接する愛知県など、中部地方の 5 つの県は航空宇宙産業の中心エリアを構成しております。直近では 72 億ドル、日本全国の航空機・部品生産の 54%を占めております。このエリアはアジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区と名付けられた、イノベーションクラスターとして、日本国政府の支援を受けております。この地において、昨年 3 月 24 日に日本最多の展示機体数を誇り、国内唯一の航空と宇宙の本格的な専門博物館として、「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」がリニューアルオープンを行ったところでございます。オープン後 1 年間で、50 万人の方々が来館しております。

この博物館では、ロシアに関する展示も行っております。ツイオルコフスキー氏の等身大パネルに、彼の有名な言葉「地球は人類のゆりかごだが、人類はいつまでも、このゆりかごとどまっていけないだろう」という言葉を添えて、子どもたちにアピールしております。

また、ユーリイ・ガガーリン氏につきましても、等身大パネル及びシアター映像で紹介をさせていただいております。

更にソユーズロケットの発射映像も、大型映像で紹介しております。このリニューアルにあたりましては、先人の空、宇宙への憧れや挑戦の物語を伝え、次代を担う子どもたちにチャレンジスピリットと感動を与える本格的な航空宇宙博物館を目指しました。

更に日本を代表する航空宇宙博物館として世界に開かれた博物館を目指しております。既にアメリカでは、スミソニアン航空宇宙博物館と連携協定を締結しております。またフランスのル・ブルジェ航空宇宙博物館ともパートナーシップに合意をしたところでございます。今後、私どもは、ロシアの宇宙博物館との連携を積極的に進めてまいりたいというふうに考えております。

例えば、ロシアの宇宙開発を紹介する特別展、あるいは日ロテレビ会議等のイベント、展示物の貸し借り、相互に保有する映像の上映等を行っていきたく思っております。また、これに伴って、専門家のみならず若い世代、子どもたちの交流を大いに期待しております。また今後、日ロ両国間では、例えば惑星からサンプルを持ち帰る、サンプルリターン等の科学探査、また国際宇宙ステーションの民間活用、月周回ステーション「ゲートウェイ」の建設・運用などで協力連携していく可能性が高くなってきております。これらをイノベーションの突破口となる日ロ協力ということで、博物館で積極的にご紹介し、また岐阜県をはじめ、中部地方の宇宙関連企業にも、参加を促してまいりたいというふうに思っております。

最後に、航空宇宙開発は大変な困難と挑戦の上に成り立っております。同時にそこには、国境なき人類の夢と未来があふれております。素材からシステムまで、裾野の広いイノベーションの宝庫であります。近年、これに多くの国々や民間企業などが積極的に参加を表明しております。大変ダイナミックに動き出しているこの分野で、日本とロシアの交流が更に進化していくことを期待しております。以上でございます。ありがとうございました。

オシマコフ・ロシア連邦産業貿易副大臣

古田知事、ありがとうございました。

トムスク州は長年、日本と協力関係を持っています。幅広い分野の協力協定を結び、様々な技術交流プログラムが展開されています。ジヴァチキン・トムスク州知事に「日本の都道府県とのイノベーション協力のポテンシャル」について報告していただきます。

ジヴァチキン知事お願いします。

ジヴァチキン・トムスク州知事

ありがとうございます。

技術の発展の基盤は、大学やアカデミー（科学研究所）の科学技術力であることは明らかです。トムスク州 400 年の歴史の中で、140 年はアカデミー科学の歴史です。

ウラル以東で第一号の国立大学が作られたのがトムスクです。これはアジア大陸で 5 番目の大学です。東京で私は都知事と東京大学学長に会う機会がありました。その時分かったのは東京大学がアジア大陸 4 番目で、その次にトムスク大学が創設されたことです。ですから二つの大学は同級生みたいなものです。

トムスク州の人口の平均年齢は 38 歳、非常に若い人口です。人口に対する博士号取得者の割合は国内 1 位です。ロシア帝国時代に創立された 2 つの大学が「国立科学研究機関」の指定を受けています。他の大学と共に 2020 年世界トップ 100 の大学になれるよう努力しています。

アカデミー科学のおかげでイノベーション発展のベストモデルが作られました。それは総合大学、単科大学、アカデミー科学（12 研究所）、経済特区、工業団地、地域エンジニアリングセンター、輸出支援センター、クラスター発展センターが連携したシステムです。トムスクには多くのクラスターがあります。

その中のひとつを紹介します。「スマートテクノロジー・トムスク」です。これは 200 社以上の企業と科学センターを組み合わせたものです。欧州の大学と共同で医療、製薬、コンピュータビジョン、北極、ロボット技術、デジタル医療、スマートシティなど 6 つのプロジェクト連合が活動しています。さらにデジタル産業やデジタル鉄道など複数のプロジェクトが策定中です。

クラスターによって 27000 人の雇用が生まれました。企業は都市環境問題からロボット技術に至るまで様々な研究を行っています。いまトムスク大学の学生が作った世界で初めての学生宇宙船が宇宙を飛んでいます。3D プリンターだけで 100% プリントされた初めての宇宙船です。

「ウインターシティ」プロジェクトではシベリア条件下の無人運転自動車用の新技術を開発テストしています。

「タイガ」プロジェクトは森や湖の広大な無人の地域を無人で飛ぶ飛行体をテストしています。

欧州の大学と共に、スマートシティのデジタルプラットフォームを開発しています。これは都市経営問題の進歩的かつ効果的解決のためのオープンスペースです。

「生きた研究室」プロジェクトは都市空間の近代化を提案するものです。

トムスクでは世界ロボットサッカー大会「ロボカップ」の国内予選を行っています。

短い発言時間ですべてをお話することは不可能です。トムスクにお越しください。

皆様の多くとすでにお会いしました。まだまだ当州についてお話しすべき内容がたくさんあります。

トムスク州の面積は 324000 平米、イタリアやイギリスより大きく、環境や豊かな自然が素晴らしい土地です。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

欧州各国と米国がトムスクの科学技術センターに進出しています。

日本企業と連携して技術交流ができれば嬉しい限りです。パートナーになれるよう期待しています。

オシマコフ・ロシア連邦産業貿易副大臣

ジヴァチキン知事、端的で素晴らしい発言ありがとうございました。

大東京圏の一部で、トムスク州が積極的に交流している埼玉県は、日本で最も経済力のある県のひとつです。製薬、医療製品、精密機械などのリーダー県です。

埼玉県知事で全国知事会会長の上田清司様に発言をお願いします。どうぞ。

上田埼玉県知事

埼玉県の姿ということで、ご紹介したいと思います。ちょうど東京都の2倍の面積で北側にちょうど被さるようなかたちで埼玉県があります。東京駅から埼玉県の中心地まで、電車でも自動車でも30分から40分ぐらいで到着しますので、それこそ、広いロシアの国土からすれば本当に庭先に出るような感じであります。人口は732万人、人口規模では全国5位。また、人口増加率では、現在、日本で3番目のところにいます。

県内のGDP総生産は、22兆円で全国5番目。ただ、直近の10年間では企業の本社の転入超過、いわゆる純増が全国で1位になっています。理由は恵まれた交通網が一番ポイントだと思っています。新幹線が6路線、高速道路網が5本、こうした地の利に恵まれています。ラグビーワールドカップが既にご案内のように、ロシア対日本が開幕戦であります。同じくロシアが埼玉県の熊谷のラグビー場でサモアと対戦をいたしますので、ぜひおいでいただければと思っています。

埼玉県は自動車産業、食品加工業、化粧品、それからウヰなどが強い産業であります。将来に向けて、先端産業創造プロジェクトを展開しているところでございます。主にナノカーボン、医療イノベーション、ロボット、新エネルギー、航空宇宙に関する分野などの中小零細企業などの様々な展開に対して、県として返さない補助金を出しております。

こうした試みの中で、幾つか商品化、製品化しているところもございまして、今日はその中で、2つほどご紹介したいと思います。

県が主軸になって展開しております、マグネシウム蓄電池というものを開発しております。今のこうしたスマホは、リチウムイオン電池ですが、課題があります。例えば水に弱くて発火しやすいということで、うっかり飛行機の荷物のところに置いたりすると危ないという話がございます。マグネシウム蓄電池はそうした可能性が全くないということ、それから非常にリチウムに比べると、安価で済む。それから2倍の容量を持っていますので、これがフルに使って、6時間しか使えなければ12時間と。あるいは、もっと小型にできるということですので、将来は補聴器とかウェアラブル関係などで、このマグネシウム電池の展開ができるんじゃないかということ、今試作中でございます。そう遠くない時期に商品化ができるものと確信しております。

また3Dの医療機器や、あるいは様々な新しい試作品が出ておりますが、特にIPS細胞の分化誘導装置などが、今医療機関関係からどんどん取り寄せさせられているところもございまして。更に、地中熱ヒートポンプの部分では、今度東京オリンピックの会場にこのプロジェクトで開発した地中熱を利用したポンプが採用されることが決まるところです。

また、航空機、宇宙産業の関係の中ではIH1が埼玉県の、ちょうど圏央道というメインの高速道路のど真ん中に進出をいたしました。その他にもホンダの世界のマザー工場が埼玉県の寄居にございます。ここで基本的には、様々な最新技術で作ったものを、世界のそれぞれの工場で作っていくという仕組みになっております。また、比較的日産系が多いんですけども、日産系のトップ部品メーカーでありました、カルソニックカンセイの研究開発センター本社、あるいはハイアールグループの世界5カ所目の研究開発拠点として、埼玉県の熊谷にその存在がございます。

埼玉県、東京などの近場ではありますが、観光に恵まれておまして、東京にはもう既に江戸がないといわれておりますが、埼玉には小江戸川越という江戸の町並みを、今も残しております。あるいは、また秩父のユネスコの無形文化遺産に登録された秩父の夜祭など、また清流の川下り、ライン下りなどの長瀬、あるいは巾着田の曼珠沙華の群生しているところなど、また、盆栽の世界の聖地でもございます。そうしたところがございます。短い時間ですが簡単にご報告をいたします。以上です。

オシマコフ・ロシア連邦産業貿易副大臣

上田様とても素晴らしいプレゼンありがとうございました。これが貴県との協力のための技術課題であると理解しました。とても詳しく面白い内容でした。

少しまとめてみます。本日ここで過去のイノベーション協力から未来のイノベーション協力まで幅広い問題を話しています。両国 4 地方のポテンシャルを見せていただきました。イノベーション協力において私たちはもっと多くのことをお互いに知ることができ、新しいプロジェクトを始めることができるでしょう。

そのためにも出席者の皆様を本年 7 月エカテリブルクで開催されるロシア最大級の産業展示会イノプロム 2019 にお招きしたいと思います。日本は 2017 年のパートナー国でした。今年は大きな日本パビリオンが作られ、両国の協力に関するロ日専門家セッションが行われます。

世耕経済産業大臣は当方の大臣から公式招待状を受取っています。これは大規模な素晴らしいイベントです。日本企業がイベントスポンサーとしてよく参加しています。

当セッションにご参加いただき感謝いたします。迅速に 30 分で終わることができました。休憩を取らず、次のセッションに移る提案が届いています。シュヴィトコイ大統領特別代表にバトンをタッチしましょう。

コサチョフ国際問題委員長

すみません、モデレータとして議事に介入します。私の手元にも第三セッションのシナリオがあるのですが、そこでニコラエフ・サハ共和国ヤクーチャ首長が発言を要請しています。どうも別のシナリオのようです。それはそれとして、ニコラエフ首長にも本件についての考えを述べていただきたいと思います。依頼があれば、発言をお願いするのが当然です。失礼いたしました。

ニコラエフ・サハ共和国ヤクーチャ首長

本日の会議で発表するために、私も日本の友人たちと同じぐらい長い距離を飛行機で移動してきました。ですから発表の機会をいただけなかったら変ですよ！

尊敬する同僚の皆様、日本のイノベーション技術がヤクーチャの厳しい気候でうまくマッチングしている共同プロジェクトについて簡単にお話しします。プロジェクトの分野と規模が様々ですが、困難なロジステック環境を持つ特別な寒冷地でも規模を変えて応用できる可能性があると思われま

ヤクーチャの産業発展への日本企業の貢献は長い歴史を持っています。

1970 年代ヤクーチャから日本にコークス炭が輸出されていました。又、南ヤクーツク炭田は日本の設備機械や技術を利用し開発を進めて来ました。現在、この地域にロシア極東地域最大の天然資源加工センターや石炭採掘輸出センターが作られ、産業振興プロジェクトが推進され、南ヤクーチャ社会経済先行発展区が創設されています。これらは常に日本が保有する技術に対してドアが開かれています。

ヤクーチャ北極地域の発展に注目が集まっています。最も重要な問題は持続的かつ安定した電力供給です。昨年の 11 月チクシに風力発電所が作られました。このイノベーションプロジェクトは「ルスギドロ」社が日本企業「駒井ハルテック」と「三井」、及び新エネルギー・産業技術総合開発機構「NEDO」と共同して実現したものです。北極タイプ

の風力発電設備はマイナス 50℃の環境でも運転が可能です。ヤクーツク市で日本の技術により温室野菜通年栽培施設の建設が進んでいます。永久凍土の上に建設された初めてのプラントです。このプロジェクトは 2016 年 12 月長門市で行われたプーチン大統領と安倍首相の首脳会談の結果、ロ日メインプロジェクトリストに含められたものです。

昨年 12 月私たちは実験温室を稼働させました。そして明日 5 月 14 日ヤクーツク市で日本側パートナーの出席の下、極東バイカル地域発展基金の支援で建設された第 2 ステージの温室を稼働させます。

第 3 ステージの建設は 2020－21 年に計画されており、計画生産能力が達成されれば、約 3.5 ヘクタールで野菜約 2 千トンを生産する予定です。

昨年、北海道総合商事の協力で、ヤクーツク市で初めての医療廃棄物無煙焼却炉が建設されました。現在日本企業は、ごみ処理のプロジェクトにおいて、最も可能性のある望ましいパートナーと見られています。

現在サハ共和国の経済戦略の優先課題のひとつが IT 分野の振興です。

現在日本のパートナーと共に、ヤクーチャにデータ処理保管センターを創設するいくつかのプロジェクトを検討しています。

イノベーション分野の重要な協力案件のひとつとして、世界で初めてヤクーチャにマンモス動物相研究科学センターの創設が検討されています。本年 3 月、日本とヤクーチャの研究者が 3 万年間で初めてマンモスの体細胞の活性化に成功しました。このような研究成果が、いつか古代生物マンモスを地球上に復活させる可能性について私たちに期待を抱かせています。

最後に、ロ日知事会議の枠内で行う私たちの活動が、今後の発展や協力関係に新しい刺激を与えるものと確信しております。ありがとうございました。

コサチョフ国際問題委員長

ニコラエフ首長、どうもありがとうございました。あなたの発言がなければこのセッションも完全なものになりませんでした。発言はとても興味深く具体的でした。

私の方で締め言葉の言葉をすでに述べているので、ここでシュヴィトコイ特別代表に次のセッションを始めてもらうために、バトンタッチします。イノベーションから文化に移ります。どうもありがとうございました。

シュヴィトコイ大統領特別代表

どうもありがとうございます。

こんにちは、尊敬する同僚の皆様、日本とロシアの地方指導者の皆様！

イノベーションの後にすぐに文化が来るのは当然です。残念ながら、文化がなければ、すべて地方の予算にとってイノベーションは不可能です。なぜならイノベーションはクリエイティブな世界の形成であり、イノベーションは様々な問題の解決方法を創造できる世界を作ることです。ごみ処理であれ、新 IT 技術づくりであれ、クリエイティブ性が求められるものです。「文化」と「生きた文化」との接触がこのクリエイティブ性を形成するのです。

日本とロシアにどんな交流があったのかについて長く語るつもりはありません。芸術文化の交流のルーツは 19 世紀中にまでさかのぼります。

新しい息吹があったのが 1950－60 年代で、それ以降ロシア（ソ連）と日本の文化人同士の交流は途絶えることがありませんでした。

嬉しいことに、2006 年ロシア文化フェスティバル開催に関する協定が調印され、それ以降毎年 5－6 月から 12 月までの約半年間、この文化フェスティバルが継続的に開催されています。

日ロ相互交流年において様々な事業が展開されていますが、その中で文化の割合が非常に大きくなっています。

敢えて話したいことは、日本の同僚が、各県の芸術文化インフラをしっかりと整えてくれたことです。30 年前だったと思いますが、日本で大きな変化が起こりました。アーティストのための素晴らしいコンサートホールや劇場や美術館

が、とてもお金持ちの県にも、予算が限られている県にもたくさんできました。このおかげで、文化交流の地方構成要素を平準化することができました。

今日、ロシア文化フェスティバルは 47 すべての都道府県で行われています。日本のすべての都市と言ってもいいでしょう。フェスティバルにはモスクワやペテルブルクのアーティストばかりでなく、地方都市のアーティストも参加しています。これは大切なことです。例えばこの会議のプレゼンテーションも、ニコラエフ首長のプレゼンテーションも、マルチメディア的芸術手法を取り入れてなかったら、効果は薄かったでしょう。

だからこそ、地域協力が効果的であるためには、マルチメディアでも生の演出でもいいです、様々な文化的要素を利用することが必要なのです。

前置きで長い時間皆様を苦しめません。一言で言います。毎年行われるロシア文化フェスティバルに約 100 万人の日本人観客がお越しくださいます。15 年目でした、3 年前に 150 万人目の観客として日本の可愛い女性教師にロシア旅行券を贈呈しました。ロシア文化フェスティバルの観客が増えるのと同時に、日本文化への興味も高まってきました。先ほど上月大使がおっしゃいましたが、日交流年で実施された様々な文化行事に 100 万人以上のロシア国民がロシア各地で参加しています。

特に秘密にしておく必要がないと思うので、お話ししますが、現在、「地域協力年」を実施する可能性について協議検討を続けています。

この地域協力年は地域同士の交流に新たな刺激を与えることができると思っています。これはとって重要なことだと思います。

上月大使、私は日本の国家機密を暴露していませんよね！暴露していない、でしょ？口を滑らせた？すべて正しいですよ？

ならば安心しました。日本に入国させてくれますね。

それでは基調報告を平井鳥取県知事をお願いいたします。

平井鳥取県知事

尊敬するコサチョフ様！尊敬するシュヴァイトコイ様！尊敬する知事の皆様！紳士淑女の皆様！

私は平井伸治と申します。鳥取県知事です。鳥取県は人気の観光地で、温泉、海水浴場、砂丘、美しい海と山の自然があります。

鳥取牛、ワイン、カニがとても美味しいです。鳥取は食通のメッカです。鳥取によろこそ！

これは山陰海岸ジオパークでございまして、実はここに、ロシアと日本の関係の歴史もあります。この沖合でロシアの兵士が多数亡くなりました。漂着をしたロシア兵を、今も鳥取県民は右下にあります、碑を立てましてお参りを毎年しております。ロシアの大使館もやってきて、共に弔いを続けています。私たちは長いこと、交流を続けてまいりました。

今日、がスパティアルタモノさんもおっしゃいましたけれども、もっと私たちは近くなれるんじゃないかと思えます。この地図をご覧くださいと思います。鳥取は日本で唯一、ウラジオストク沿海地方と、私たち鳥取県の境港と航路で毎週結ばれています。フェリーが通っているわけでございます。その先にはシベリア鉄道であるとか、また最近道路もつながってきております。こうしたものをつないでいって、私たちはヨーロッパからアジアまで広がる、ロシアの国を生かしながら、アジアとヨーロッパの架け橋を、私たちが協力してやっていけることができるのではないかと思います。鳥取もその玄関になれると思います。

鳥取県とロシアであります、沿海地方、それからハバロフスク地方と姉妹提携や友好交流をしておりますし、今日もサハ共和国のニカラエフさんとお話をしましたが、その他の地域ともつながり、そういう可能性があると思

っています。今、鳥取県では沿海地方、ウラジオストクにビジネスサポートセンターを作っておりますし、ここの運営は実は北海道の会社と協働してやっています。

私は1地域だけのために日ロ交流をやるべきではないと思っています。経済効率性や、効果を考えれば、私たちが東になってルートを作り、交流を進めるのが得策ではないかと思えます。

これがDBSクルーズフェリーという日本とロシアを結ぶ、毎週結んでいる航路でございます。これに乗りまして、例えばロシアと日本の友好の都市として、モスクワから記念行事でラリーチームが鳥取に上陸し、東京まで行きました。この記念行事には、数々の方々が関わられました。

また、右下にもありますが、国際連合のUNDP、国際開発計画の一環として、こうしたルートが現代のシルクロードとして、ロシアも通るルートも含め、認定をされてきています。

なぜこれをやるかといえば、先ほどもお話がありましたが、アジアとヨーロッパをつなぐスエズ運河のルートでは、モスクワまで40日かかります。海で極東に渡り、ロシアの中を移動すれば、半分の20日で移動できるわけです。しかも、このルートが整うことにより、今日お集まりの皆さま、それぞれの地域に平等に恩恵が加えられます。私たちは発想の転換をして、一旦モスクワから物を入れるのではなくて、極東からアジアと結ぶ、そういう時代を作るべきではないかと思えます。

これは、DBSクルーズフェリーであります。このように今、人の動きが増えてきておりますし、先ほどお話がございました、多角的な文化交流が必要だと、ガスパティシビルトコイがおっしゃいました。例えば料理、レストランのシェフたちの交流が、この船に乗って行われています。また梅ジュースが、このモスクワのほうにまで運ばれてきているところがございます。

漫画のお話が先ほど、ハバロフスクからございました。この漫画は世界で共通の文化になり始めていますが、鳥取にも有名なキャラクターの町ができていますし、2つの空港それぞれに漫画のキャラクターの名前が付いています。毎年、国際漫画コンテストを鳥取県で行っています。ついこの間発表になった、前回の受賞者は、サンクトペテルブルクの11歳の少女でありました。毎年のようにロシアからも応募がありますし、結構いい作品を出してくれています。文化は簡単に国境を越えるものであります。

これは、沿海地方のアルセーニエフ博物館、いずれエルミターージュの分館ができたときに、そこに納入されるものであります。日本の伝統的な着物であります。この着物を通して、ロシアの人たちに日本文化を理解していただくことができました。また、書道、それから陶芸でありますとか、また和紙を使った折り紙でありますとか、こういうペーパークラフトなども含めて、子どもたちやお年寄りまで、文化を通じてお互いに心を通じ合うことができ始めています。鳥取県は今、極東地域を中心にして、こういう交流を進めています。

スポーツなども、その大きな分野です。例えば沿海地方と毎年のように柔道の交流をしています。また右上の5でございますが、この5につきましてはハバロフスクや沿海地方など、極東の人たちとの交流をしています。またサッカーでありますとか、バレエでありますとか、大変に多くの交流をしまして、この他にもバドミントンやバレーボールなど、青少年を通じた交流が盛んに行われています。

先ほどご提案がございましたが、地域レベルでの文化、スポーツ等の青少年交流など、ぜひ推進をしていければと思います。

一緒に日ロ関係を発展させましょう！

100ルーブルよりも100人の友達を持とう！ありがとうございました。

シュヴィトコイ大統領特別代表

平井知事、ありがとうございました。

この素晴らしいことわざにある 100 人の友達に、本日私たちは更に 50 人を付け加えることができましたと思います。100 より 150 の方がいいですね！友達が増えました。

本当に印象に残る発言でした。今では文化交流でも地域交流でも多くの場合、かならずモスクワ経由にしなくても良くなっています。たとえば、マリンスキー劇場の分館ができた沿海地方に日本から来る観光客の数が増えています。 Санктペテルブルクの素晴らしい演出を、今日、沿海地方のウラジオストクで見ることができます。

同じような状況が芸術教育でも起こっています。似たようなことがスポーツにもあります。本日出席したコジェミャコ知事は、また会場に戻ってきますが、多くの人と同じようにスポーツに夢中です。コジェミャコ氏はサハリン州知事でした。北海道とサハリンの協力はとても良い見本です。特に文化教育交流についてもビザの簡素化が図られている現状があります。

これもとても重要なことです。なぜなら大きな協力の発展を刺激してくれます。もう一つ見本は、本日朝、大使が話されましたが、劇場年に合わせて「ロシアシアターオリムピック」が富山県と Санктペテルブルクで行われます。これも文化分野におけるとても重要な協力の見本です。

ウリヤノフスク州知事のもろゾフ氏がいらっしゃいます。ウリヤノフスク州はロシアの地方文化の首都です。文化、教育、科学、スポーツ分野の地域間関係はモスクワ経由でなく、様々なレベルで直接実施することが可能です。もちろんモスクワ人としては外されている感覚はありますが。

ではここで謹んで、鈴木北海道知事に発言をお願いいたします。どうぞ。

えっ、間違った！？ 年は取るものじゃないですね。これが悪いところです。知事なのに若い人を見ると、自分の目が信じられなくなります。どうそ！

鈴木北海道知事

北海道知事の鈴木直道でございます。日ロの地域間交流をリードされている方々が一堂に会して、この会議が盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、発言の機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

北海道は日本の中で最北に位置する寒冷地であり、農業や水産業、寒冷地建築や食品、日本最多のテストコースが設置されている自動車関連などの製造業のほか、特に近年、スキーリゾートや温泉リゾートなど、観光産業が注目をされているところであります。

北海道は 1990 年にロシア・ソビエト連邦社会主義共和国との間で、友好パートナーシップに関し合意して以降、1992 年にサハリン州、沿海地方、ハバロフスク地方の極東 3 地域との間で、協力発展プログラムを策定し、食と健康、寒冷地技術、環境、エネルギー、観光、文化、スポーツといった幅広い分野での交流促進に努めているところであります。

欧露部では昨年、 Санктペテルブルク市との間での協力発展に関するロードマップの合意や、モスクワ州との地域間交流開始の合意により、医療や文化、スポーツなどの分野での交流を開始したところであります。

なお、2015 年にはサハ共和国とも副知事、副首相の間で、相互理解に関する覚書に署名をし、相互訪問を重ねているほか、2017 年には日本国政府訪問団とともに、スヴェルドロフスク州、エカテリンブルクのイノプロムに参加をさせていただいたところであります。

次に幾つかの交流事例をご紹介させていただきたいと思います。初めに文化交流については、北海道内の 14 の市町村が 17 組の姉妹提携を結んでいるサハリン州との間で、最も盛んであります。北海道とサハリン州との共催に

よる市民交流会議や、日本語、ロシア語によるスピーチコンテスト、民族アンサンブルの公演など、毎年開催をしているほか、演劇や人形劇、遺跡や歴史的建造物の研究交流などを実施しております。

特に昨年は、サハリン州との提携 20 周年を記念いたしまして、日ロ文化フェスティバルを両地域で開催いたしました。サハリン州政府の協力の下、世界的に有名なサクソ奏者、イーゴリ・ブットマンの初の北海道公演を実現したところであります。

また昨年 8 月に、総勢 44 名の Санктペテルブルク知事代表団が、ミハイロフスキー劇場バレエ団を伴って、来道されまして、世界トップレベルのバレエ公演を約 1,000 人の北海道民にプレゼントをいただいたところであります。

Санктペテルブルクの間では、古くは 1782 年、嵐に遭い漂流した日本の商船の船長、大黒屋光太夫がロシア人の支援を受け、アリューシャン列島から Санктペテルブルクまで行き、エカテリーナ 2 世に謁見をし、日本への帰国が許され、北海道に帰ってきたという実話もあります。

人文分野では特に近年、日ロ地域間双方の大学や、研究機関同士の協定も複数結ばれ、がんシンポジウムの共同開催、画像診断センターやリハビリセンターの日ロ共同での設置が実現をしているところであります。

次に青少年交流について、サハリン州との交流事例をご紹介します。北海道とサハリン州の間では、毎年交互に子どもたちを派遣し、ホームステイやキャンプなど、共同体験を通じ、交流を深めているほか、北海道内の大きなイベントの 1 つであるよさこいソーラン祭りにも、サハリンチームに参加をいただき、日ロ文化の融合をさせた踊りを披露していただいているところであります。

また、これまで 20 年にわたり、選手やコーチを毎年相互に派遣し合っている柔道交流も行っているほか、今年 2 月にはサハリン州で開催された冬季国際スポーツ競技大会「アジアの子供たち」では、日本選手団として、選手、コーチ 63 名全員を北海道から派遣をし、ロシアをはじめ参加国の子どもたちとの競技を通じて、友好親善を深める機会になったところであります。

教育分野では、2016 年の日ロ首脳会談の際、創設が承認された日ロ大学協会の第 1 回総会が昨年 5 月、モスクワ国立大学学長をはじめ、日ロの大学関係者の出席の下、北海道大学において開催されました。北海道内にはモスクワ大学や、 Санктペテルブルク国立大学など、ロシア各地の大学と協定を結んでいる大学のほか、中等高等学校間の交流も拡大しております。

日本国内で初めて、ロシア帝国の領事館が開設されて以来、古くからロシアとの交流の拠点の 1 つとなっている北海道函館市には、極東連邦総合大学の分校が設置をされており、ロシア語やロシア文化に精通した優秀な日本人学生を輩出しているところであります。ただいご紹介した人文青少年分野以外にも、経済交流では、サハリン州の窓枠企業が 2016 年 7 月、札幌に日本本社を設立した取り組み事例などもあります。こうした北海道の取り組みは、政府の 8 項目の協力プランと相通じる北海道の 5 つの協力パッケージ、すなわち 1 つは食と健康長寿、2 つ目に寒冷地技術、3 つ目に環境、4 つ目にエネルギー、5 つ目に直行航空路線の開設といった協力をしてきておりますが、前知事が提案したこの 5 つの協力パッケージのうち、直行航空路線開設につきましては、昨年の 12 月ウラル航空が北海道と沿海地方を結ぶ定期便を開設したので、私はこれまでの協力パッケージの「直行航空路線開設」を、「人的交流の拡大」に変えまして、今後の「新 5 つの協力パッケージ」として、日ロの地域間交流の牽引役として、北海道の役割を果たしてまいりたいと考えております。

日ロ両国の政府や国会議員の皆さま、本日お集まりの多くの知事の皆さま、どうぞこれからも北海道に対するご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

最後になりますが、戦後 73 年を経過した今も、日ロ両国の間には政治課題である北方領土問題が未解決のままです。日ロ両政府間においては、1956 年の日ソ共同宣言を基礎として、平和条約交渉を加速させるとの両首脳の合意を受け、相互に受け入れ可能な解決策を目指して交渉が進められていると承知しております。領土問題は、両政府間で取り組む問題ではありますが、隣人同士である北海道とロシア極東地域はもとより、日本と

ロシアのそれぞれの地域同士が友好、経済など、様々な分野で交流を深めることで、双方の信頼関係が強化をされ、領土問題を解決して、平和条約を締結することにつながることを期待しております。ありがとうございました。

シュヴィトコイ大統領特別代表

鈴木知事、どうもありがとうございました。

非常に印象深い発言でした。本当に北海道と沿海地方やサハリンの関係は幅広いものです。私たちが話している人的交流や文化交流、人々の行き来については、本当に近年、双方を訪れる小中高校生の数が増えています。全く持って、これこそ信頼の雰囲気を作ります。私は両国民と両国間の最も大きな問題は信頼だと思っています。信頼が最も複雑な問題を解決することを可能にするための環境を作ります。地域レベルや中央政府レベルでそのような努力をすることは無駄ではありません。なぜなら国民の理解は政治家に最も複雑な課題について話し合い解決する可能性を与えます。

知事は高等教育分野での交流や協力について述べられました。

ここでジヴァチキン・トムスク州知事に発言をお願いしたいと思います。というのも、トムスクはシベリアの学術都市であり、高等教育機関が町の中核を成し、地域生活のとても重要な部分になっています。

ジヴァチキン知事、お願いします。

ジヴァチキン・トムスク州知事

シュヴィトコイ特別代表、ありがとうございます。

改めて会議参加者にご挨拶申し上げます。トムスク州のメインパートナーは東京都です。その友好関係を可能にしてくれたのがロシア知事会議と日出国の全国知事会です。

10年前に石原都知事がロシアの地方の一つにアジアメインシティネットワークに入ることを提案しました。ロシア大統領と調整した結果、トムスクがその候補になりました。なぜトムスクかと申しますと、たくさん理由があります。前の発言で触れましたが、トムスクの歴史は400年で、その内250年間トムスクはシベリアの首都でした。そのため外国のすべての冒険隊やロシア帝国使節団にはかならずトムスクの代表者が入りました。だからこそ日本側の招待でこの国際団体に参加している唯一のロシアの都市なのです。

2014年に総会が行われました。その際、都知事を団長とする代表団がトムスクを訪れました。その1年後私共が訪日してトムスク州と東京都の協力議定書に署名しました。この文書の中で協力分野を大学間パートナーシップ、感染症対策、観光振興、家庭廃棄物行政などに決めました。

大学交流の核はトムスク国立研究大学と東京大学です。昨年両大学が戦略的パートナーシップ議定書に署名しました。主なテーマは環境研究と教員学生交流プログラムです。またトムスクの大学は神戸、筑波、京都、広島などの大学や研究センターと長年の交流を行っています。

医療協力として私たちは東京都の「アジア感染症対策」プロジェクトにも参加しています。トムスクの医療関係者が日本で開催される国際会議によく出席しています。

廃棄物処理に関する近代的効果的体制の構築はロシアの各地方にとって極めて重要な問題です。私たちは対策を講じるとともに、東京都の教育プログラムに参加しています。

2012年から青少年スポーツ交流プログラムに参加しています。トムスクの若いスポーツ選手が交流を通じて日本の青少年と知り合い、生活習慣を知る機会を得ています。もちろん同年代の青少年とスポーツで競い合うのは当然です。

そして観光です。トムスク州は東京都の「ウエルカム・アジア」キャンペーンに参加しています。トムスク州はロシアの真ん中に位置し、誰にでもオープンです。トムスク州の魅力は美しい自然、歴史記念物、シベリア先住諸民族の独特な風俗です。数多くのフェスティバルを開催しています。

そのフェスティバルのひとつが、長年開催しているシベリア伝統工芸祭です。昨年は米国、チリ、モザンビーク、インドネシアなど世界 35 か国の参加がありました。残念ながら日本の職人の参加はまだありません。ぜひ参加してください。様々な会議で呼びかけは行っています。とても面白いのでお越しください。

東京との交流について短く報告させていただきました。私たちのポテンシャルはもっともっと大きいものです。日本の他県とも様々な分野で協力したいと考えています。ありがとうございました。シベリアでお会いしましょう！

シュヴィトコイ大統領特別代表

ジヴァチキン知事、ありがとうございました。

シベリア地域の中で最も輝いている地域のひとつ—トムスク市とトムスク州の学術・文化ポテンシャルは大きなものです。首都と一定の競争関係があることが重要です。だからジヴァチキン知事が、東京がトムスクのメインパートナーだと言った時、チェリョーミン・モスクワ市対外経済大臣が何を思ったか想像がつかます。

首都同士が互いに協力することには限界があります。しかしこれは新しい要素です。新しくとても印象深いものです。鈴木知事がサンクトペテルブルクとの協力について述べられました。ジヴァチキン知事が東京都との協力について話しました。これは地域間交流において全く新しい要素です。私は誰にでも交流の可能性があると思います。ありがたいことに、これは当たり前のことであり、競争ではありません。そう思います。またオリンピックゲームでもありません。これは現実的互恵的協力で、様々な分野で様々な地域と行うことが可能です。

チェリョーミン大臣、どうぞ。

モスクワ市チェリョーミン大臣

シヴェトコイ特別代表、ありがとうございました。

尊敬するコサチョフ議員！尊敬する大使閣下！尊敬する県知事の皆様！尊敬するロシア地方首長の皆様！

これほどハイレベルのフォーラムを本日受入れることができました。大変光栄なことです。交流年に合わせて、数多くの経済、情報、科学技術、地域間、文化人的協力が行われています。そのほとんどの行事にモスクワの企業家や芸術団、劇場、ミュージアムが積極的に参加しています。

日知事会議の意義深い総会の開催の栄誉を、ロシアの首都モスクワに与えてくれたことに対してロシア連邦院に心より感謝します。

このような機会を得たからには、私たちのメガポリスで起こっていることについて、興味深い話をいくつか紹介しないわけにはいきません。

最初に日本経済界との協力についてです。現在モスクワ市内で 60 以上の日系の大企業が活動しています。その蓄積資本総額は約 15 億ドルです。その日系企業と日本側パートナーとの取引額が増加しています。2018 年は約 42 億ドルで、30%の伸びでした。

モスクワを紹介するスライドをいくつかお見せします。まず最初にどのような革命的变化が近年モスクワで起こっているかについてです。この変化は世界的な評価機関の目にしっかり留まっています。過去 5 年モスクワ市は世界銀行からだけでなく、プライスウォーターハウス、クーパーズ、フォーレン・ダイレクター、インベストメント・ファイナンス・シェーン、タイムズなど様々な有名な国際的団体から投資・人的資源分野で非常に高い賞をいただきました。

情報技術普及レベルについて、国際連合はモスクワ市を第一位に選んでいます。行政のあらゆる分野における情報技術普及について、ウエル・ゴーン社が高い評価をしています。もちろんこれはほんの一部に過ぎません。モスクワ市は基盤整備に多くの投資をしています。

近年、モスクワ市は外国投資家にベストプロジェクトを紹介するためにたくさんの仕事をしてきました。その多くが現在進行中です。その代表的なものがスマートシティプログラムであり、行政のあらゆる分野における情報技術普及です。

また市中心部の再開発によって、数百の道路が改修され、都市景観を完全に変わりました。このセッション終了後に訪問する予定のザリャジエ公園の建設を含め公園整備事業を展開しています。

サッカーワールドカップの前に膨大な仕事をしました。市内の全スポーツ施設の近代化、5つのスタジアムの建設、ワールドカップの開会式と試合を行った世界最大規模を誇るルジニキ・スポーツクラスターの創設です。また地下鉄、地上交通、バスや市電の設備更新を含む都市交通の大規模整備事業。記録的短期間で完成されたモスクワ中央環状通は毎日50万人が利用しています。

現在、市内道路や交差点、乗継乗換ポイント、老朽化住宅の更新、テクパーク内の老朽化した工業地区の転換、テクノポリス、スターアップインキュベータなどが、今までにないスピードで建設されています。外国パートナーの注意を惹く最も興味深いプロジェクトのひとつが、まだロシア国内にまだ存在しない国際医療クラスターでしょう。

将来性があると感じるのが両国間の双方向観光の振興です。

これらすべてのイニシアチブの実現のため、日本の皆様が積極的に関与してくれるようお願いいたします。日本はモスクワ市が貿易を発展させる上で最も将来性のある市場の一つです。昨年モスクワ市は非エネルギーと非原料対日輸出額で国内第一位でした。その金額は約10億ドルで、19年度も成長を続けています。年度当初から約60%の成長がありました。

2019年3月千葉市で大規模な国際食品展が行われ、複数のモスクワ企業が Made in Moscow と銘打って共同コーナーを設けました。200以上の日本企業がモスクワ企業の製品に関心を示しました。

投資活動や文化、社会経済発展分野で今後とも日本のパートナーとの協力関係が発展することを期待しています。今日現在モスクワ市の主なパートナーは、シヴィトコイ特別代表が指摘した通り、日本の首都東京です。両者の間で2015年に調印した協力プログラムがあり、これが最も重要な文書として、交通や都市開発から教育・文化・スポーツ・観光に至るまであらゆる分野の協力を規定しています。

これを機会に、日本の他の地方との協力関係構築の可能性について検討したいと思います。近い将来、同じような協力プログラムを調印する提案をしたいと思います。私たちにとって文化交流は日関係発展の優先項目のひとつです。なぜなら文化交流は外的要因や経済市況に関係なく信頼と善隣の雰囲気を作ります。

ロシアと日本の相互交流年の枠内で、東京都との合意に従って、昨年10月日本でモスクワ文化デーが成功裏に開催されました。

昨年東京でモスクワ市議会議長と東京都議会議長の会談が行われました。双方は両都市の立法機関の組織、発展、改善の分野で定期的な交流を継続しています。

善き伝統に従って、海外のパートナーと共にモスクワ市政府は様々なイベントを市の中心広場を使って行っています。昨年8月はモスクワ市政府の後援で駐日日本国大使館がモスクワ日本週間を開催しました。大使にはイニシアチブに感謝します。

本年7月次回のモスクワ日本週間を開催する計画です。同僚の皆様、是非この素晴らしいイベントに参加してください。市内公園のひとつゴリキー公園で武道の大会が行われます。日本から師範を呼んで、体験教室や試技を見せてもらう予定です。

またこの機会を利用して、日本の各県の同僚の皆様にもモスクワ国際フォーラムのご案内をしたいと思っております。7月初めモスクワ国際都市問題フォーラムが行われます。世界中の大都市の都市計画や持続的開発分野の専門家、評論家、行政の指導者が集まります。ご参集の同僚の皆様にもご参加いただき、ご自分の経験をお話しいただけるよう期待しています。

10月初めに世界メガポリス国際高校生オリンピックが数学、物理学、化学、情報技術の科目で行われます。日本の都道府県チームの参加を期待しています。参加して素晴らしい成績を収めることで東京の教育の素晴らしい質を見せていただきたいと思います。

ちなみに今日では、私たちが過去に行った中等教育の発展と社会分野への投資の努力が大きな成果を出しています。

昨年世界のメガポリスの教育の質をランキングしている OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) において、モスクワが中等教育の質で世界 5 位にランキングされました。東京が 4 位です。よって私たちはどこを目指すべきが明らかです。

皆様がこの度の招待を受入れ、モスクワを訪問して下さったことに改めて心から感謝します。モスクワはいつもホスピタリティーに富み、協力のドアは開いています。東京都以外にも近い将来に別な地域パートナーが現れることを願っています。

ありがとうございました。

シュヴィトコイ大統領特別代表

チェリョーミン大臣、ありがとうございました。

尊敬する同僚の皆様、セッションの終了時間が迫っています。どなたか発言を希望される人はいますか？皆様は人道的にお互い沈黙を守ってくださいますので、ここで終了したいと思います。

コサチョフ氏と上田氏に、文化について話す機会を作っていただいたことに感謝します。日本人にとって「美」は民族的哲学です。同じようにロシア人にとって「美」は文化であり、民族的アイデンティティーです。

私達には多くの共通点があり、とてもたくさんの近似点があります。国のレベルでも地方のレベルでも文化や芸術分野の交流が、教育・学術・スポーツ分野と同様に、多くの成果を伴って発展していくことを願っています。

本日のセッションの参加者の皆様に感謝いたします。ここでコサチョフ議員にバトンをタッチします。ありがとう。
DOMO ARIGATOU.

コサチョフ国際問題委員長

どうもありがとうございました。

尊敬するシュヴィトコイ特別代表、尊敬する同僚の皆様！

本日の総会を終えるに当たって、連邦院口日議会間・地域間協力支援協議会を代表して、パートナーとしてこの会議を成立させるためにとても多くのことを成して下さった日本全国知事会に、本日の総会に積極的に参加してくれた口日両国の知事に、本日の会議のホストであるモスクワ市政府に、そして両国の外交当局に、心からの感謝の言葉を述べたいと思います。

本日の朝に私たちが赤道を超えると、本日の総会の赤道を超えたとか話しましたが、いま私たちはもう一つの赤道に近づきました。なぜなら口日知事会議は本日の総会で終わったわけではありません。また今日もこれから予定がありますし、明日もモスクワ市内で公式行事があり、市内を視察し、連邦構成主体の仕事ぶりを見ていただきます。最後の公式行事はロシア上院でマトヴィエンコ連邦院議長との会見です。

この総会の前半が成功裏に終了したことをお祝い申し上げます。ジャーナリストが待っているようですね。でも皆さん！この素晴らしい宮殿の正面玄関で全員による記念撮影があることを忘れないでください。

皆様ありがとうございました。次は隣室での仕事です。ありがとう。